RICOH

リコーメディアコネクション Doシリーズ

使用説明書

ご使用の前に必ずお読みください

この装置は、第１種情報装置（商工業地域において使用されるべき情報装置）で商工業地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）基準に適合しております。
従って、住宅地域またはその隣接した地域で使用すると、ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与えることがあります。
使用説明書に従って正しい取扱いをしてください。

製品を安全に正しくお使いいただくために

―― ご使用の前に必ずお読みください ――

本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、この「製品を安全に正しくお使いいただくために」を必ずお読みください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保管してください。

本文中のマークの説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	この記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	この記号は行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●付属、あるいは指定のＡＣアダプタ以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。

●開口部から内部に金属類を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源コードあるいはＡＣアダプタのコードに重いものを乗せたり、加熱したり引っ張ったりしないでください。コードが破損し、火災・感電の原因となります。

●本機を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●本機の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢など、水類の入った容器または、小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

●本機に使用しているボタン電池を取り出した場合は、小さなお子様がボタン電池を誤って飲むことがないようにしてください。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

●本機に使用しているニカド電池は、必ず専用のものを使用してください。
また、火の中に投じたりしないでください。ニカド電池の破裂、液もれにより、火災やけがの原因となることがあります。

●充電端子をショートさせないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●充電端子に水滴のついたまま充電しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの端子に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

●内部の点検・修理は、サービス・販売店などに依頼してください。

●近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。落雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。



●万一、本機を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、サービス・販売店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



●万一、内部に水などが入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、サービス・販売店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



●煙が出ている、異臭がするなどの場合は、すぐに電源プラグを抜いて、煙が出なくなるのを確認して、サービス・販売店などに修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



⚠注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気が当たるような場所、および、ちりほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



●ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



●直射日光の当たるところや、湿度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。



●装置の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。



●電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷付いて、火災・感電の原因となることがあります。



●壁掛け用に取り付ける場合は、重みにより本機が落下しないよう、専用の取付器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。



●移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、回線コードなど外部の接続線をはずしたことを確認の上、行ってください。コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。



●水滴がついたら乾いた布で拭き取ってください。内部に入ると、火災・故障の原因となることがあります。



●お手入れの際は安全のために、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



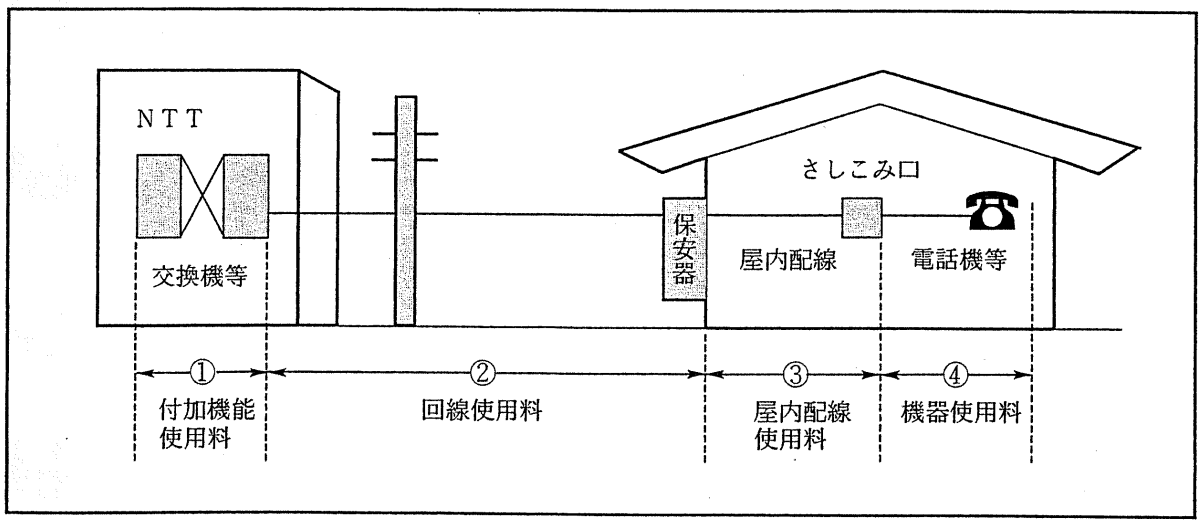
ご使用にあたってのお願い

本品をご使用にあたって、ＮＴＴのレンタル電話機が不要となる場合は、ＮＴＴへご連絡ください。
ご連絡いただいた日をもって、**「機器使用料」は不要**となります。
詳しくは、**局番なしの116番（無料）**へお問い合わせください。

〔電話料金の内訳〕

①付加機能使用料	プッシュ回線、キャッチホン、クレジット通話などをご利用いただいている場合の付加機能の使用料金です。
②回線使用料	ご契約者名簿などにより住宅用と事務用に区分され、回線使用料が異なります。
③屋内配線使用料	保安器から屋内の電話機のさしこみ口までの屋内配線をＮＴＴからレンタルでご利用いただいている場合の料金です。
④機器使用料	**ＮＴＴの電話機などをレンタルでご利用いただいている場合の料金です。**

〔ＮＴＴの基本料などのしくみ〕



● もくじ ---------- 1

● はじめに ---------- 6
1 本書の内容について ---------- 6
2 本書の見かた ---------- 8

● 取扱いのご注意 ---------- 9

● システムの概要 ---------- 10

1．各部の名称と説明 ---------- 12

2．フレキシブルキーとランプの説明 ---------- 14
1 フレキシブルキーについて ---------- 14

2 フレキシブルキーのランプについて ---------- 15
（1）外線キーまたは、ＭＳＡキーとして割付けられている場合 ---------- 15
（2）ファンクションキーとして割付けられている場合 ---------- 15
（3）ＤＳＳキーとして割付けられている場合 ---------- 16
（4）発信キーとして割付けられている場合 ---------- 16
（5）応答キーまたは、ＤＧＬキーとして割付けられている場合 ---------- 16
（6）パークキーとして割付けられている場合 ---------- 16
（7）ドアホンキーとして割付けられている場合 ---------- 16
（8）通話録音キーとして割付けられている場合 ---------- 17
（9）メールボックスキーとして割付けられている場合 ---------- 17

3．電話のかけかた ---------- 18
1 外線にかけるには ---------- 18
（1）普通にかけるには（任意外線発信） ---------- 18
（2）ワンタッチキーでかけるには（オートダイヤル） ---------- 19
＜ワンタッチキーに電話番号を登録するには＞ ---------- 20
（3）システム短縮ダイヤルでかけるには（システム短縮ダイヤル） ---------- 21
＜システム短縮ダイヤルを登録するには＞ ---------- 23
（4）最後にかけた相手に再度かけるには（リダイヤル） ---------- 25
（5）最後に応答した相手に電話をするには(着信リダイヤル) ---------- 25

2 便利な外線発信機能 ---------- 26
（1）受話器を戻さずにかけ直すには（クイックリダイヤル） ---------- 26
（2）かけ直しを繰り返すには（オートリピート） ---------- 26
（3）ダイヤルメモリでかけるには（ダイヤルメモリ） ---------- 27
（4）別の電話機のダイヤルメモリを使ってかけるには（代理発信） ---------- 28
（5）外線予約をするには（発信予約） ---------- 28
（6）電話番号を確認して発信するには（プリセットダイヤル） ---------- 29
（7）ＮＣＣ回線を自動選択するには（ＬＣＲ発信） ---------- 29
（8）ＮＣＣ回線を指定してかけるには（キャリア選択発信） ---------- 30
（9）割引回線等の回線から優先して選択するには(割引回線優先捕捉) ---------- 30

3 内線にかけるには ---- 31
（1）普通にかけるには（トーン呼出し） ---- 31
（2）ワンタッチキーでかけるには（内線ワンタッチコール） ---- 31

4 便利な内線発信機能 ---- 33
（1）ホットラインでかけるには（ホットライン） ---- 33
（2）音声で呼出すには（内線音声呼出し） ---- 33
（3）グループ内の空き電話を呼出すには（内線代表） ---- 34
（4）グループ内の内線電話を一斉に呼出すには（グループ音声呼出し） ---- 34
（5）すべての内線電話を一斉に呼出すには（一斉呼出し） ---- 35
（6）ＤＧＬグループを呼出すには（ＤＧＬグループ呼出し） ---- 35
（7）話し中の内線電話を予約するには(内線キャンプオンビジー） ---- 36
（8）内線の呼び先を順次変更するには(シリーズコール) ---- 36

4．電話の受けかた（外線／内線） ---- 37
1 外線を受けるには（外線ランプ赤く点滅) ---- 37
（1）普通に受けるには（任意外線応答） ---- 37
2 内線を受けるには ---- 37
（1）普通に受けるには（内線自動応答） ---- 37
（2）音声呼出しを受けたときには（音声呼出し） ---- 38
（3）受話器をあげずに受けるには（内線ハンズフリー応答） ---- 38
（4）グループ内の別の電話を受けるには（代理応答） ---- 38
（5）他グループの電話を受けるには（指定代理応答） ---- 39
（6）グループ内の電話が一斉に音声呼出しを受けたときには(グループ呼出し応答) ---39
（7）すべての内線電話が一斉に音声呼出しを受けたときには（一斉呼出し応答） ---- 39
3 ＤＩＬ／ＤＩＤ表示の電話を受けるには ---- 40
4 キャッチホンを受けるには ---- 40

5．夜間や留守番のときに便利な機能 ---- 41
1 夜間に便利な機能 ---- 41
（1）指定の外線着信に録音メッセージを送るには（留守応答） ---- 41
（2）外線着信を指定した外線に自動転送するには（指定外線自動転送） ---- 42

2 留守番のとき便利な機能 ---- 43
（1）すべての着信を１台の電話機で受けるには（集中着信） ---- 43
（2）通話中に別の外線着信を一時待ってもらうには（着信ウェイトメッセージ） ---- 44
（3）外線着信音が鳴らないようにするには（夜間鳴動先指定） ---- 45
（4）夜間の着信先を一定時間後に別の内線に転送するには（応答遅延転送） ---- 45

6．保留のしかた ---- 46
1 通話相手に一時お待ちいただくには（保留) ---- 46
（1）保留の解除は自分の電話機（自己保留） ---- 46
（2）保留の解除を別の電話機でもするには（通話保留） ---- 47
（3）パーク保留をするには（パーク保留） ---- 48
（4）保留の警告について ---- 48

7．転送のしかた ---------- 49
1 通話中の外線を内線に転送するには ---------- 49
（1）転送先に呼びかけて転送するには（口頭転送） ---------- 49
（2）ダイヤルして転送するには（ダイヤル転送） ---------- 50
（3）内線ワンタッチキーで転送するには（内線ワンタッチキー転送） ---------- 50

2 便利な転送機能 ---------- 51
（1）発信元と転送先を交互に通話するには（チェンジオーバー） ---------- 51
（2）外線発信の依頼を受けたときには（外線発信依頼） ---------- 52

8．その他の便利な機能 ---------- 53
1 受話器をあげずにかけるには（オンフックダイヤル） ---------- 53
2 相手の音声をスピーカで聞くには（スピーカ受話） ---------- 53
3 3人以上で通話するには ---------- 54
（1）会議通話をするには（会議通話） ---------- 54
（2）通話に3人目を加えるには（秘話解除） ---------- 55
（3）通話中の外線に割り込むには（外線割込み通話） ---------- 55
（4）通話中の内線に割り込むには（内線割込み通話） ---------- 56
4 キャッチホンと表示されたときには（内線キャッチホン） ---------- 56
5 席を離れるときには ---------- 57
（1）不在のメッセージを送るには（不在設定） ---------- 57
（2）離席時に電話を転送するには（不在転送） ---------- 58

6 ＤＳＳキーで電話をかけるには ---------- 61
7 プッシュホン信号を送るには（ＰＢエンド・ツー・エンド通信） ---------- 62
（ポケットベル呼出し時等）
8 ポーズ信号は自動的に挿入されます（オートポーズ） ---------- 62
9 着信音の音色を選択するには（着信音選択） ---------- 63
10 外線別に着信音を指定するには（外線別鳴動先指定） ---------- 63
11 外線別着信音を選択するには（外線別着信音選択） ---------- 63
12 通話中の外線着信表示について（通話中外線着信表示） ---------- 63
13 停電について ---------- 64
（1）停電中に一定時間電話の機能を維持するには ---------- 64
（2）停電用電話機について ---------- 64
14 長電話を知らせるには（長時間通話警告） ---------- 64
15 秘書機能について ---------- 65
（1）幹部電話機を設定するには ---------- 65
（2）幹部電話機が話中の場合には（話中転送） ---------- 65
（3）幹部電話機が離席設定の場合には（離席転送） ---------- 65
（4）幹部電話機が着信拒否をした場合には（着信拒否転送） ---------- 65
（5）幹部電話機の在席／離席を代行するには（代行操作） ---------- 65
（6）幹部電話機が応答しない場合には（応答遅延転送） ---------- 65

16 主装置で設定する機能 ---- 66
（1）外線発信を規制するには（発信テナント） ---- 66
（2）市外発信を規制するには（市外発信規制） ---- 66
（3）指定市外のみに発信させるには（帯域市外発信規制） ---- 66
（4）海外発信を規制するには（国際発信規制） ---- 66
（5）特定の海外（国）のみに発信させるには（特定国際発信規制） ---- 66
（6）内線番号を登録するには（ナンバーグループ） ---- 66
（7）他のシステムの外線からかけるには（専 － 公接続） ---- 66
（8）専用線に発信するには（専用線接続） ---- 67
（9）公衆回線と公衆回線を接続するには（公 － 公接続） ---- 67
（10）公衆回線と専用線を接続するには（公 － 専接続） ---- 67
（11）専用線と公衆回線を接続するには（専 － 公接続） ---- 67
（12）専用線閉番号（専用線閉番号接続） ---- 67
（13）発信者番号別に着信を分けるには（発信者番号別着信） ---- 67

9．電話機を便利に使うには ---- 68
1 フレキシブルキーに機能を割付けるには ---- 68
2 フレキシブルキーにシステム短縮ダイヤルを登録するには ---- 69
3 フレキシブルキーに外線番号を登録するには ---- 70
4 フレキシブルキーにＤＳＳ機能を割付けるには ---- 71
5 音量を調節するには ---- 72
（1）受話音量を調節するには ---- 72
（2）スピーカの音量を調節するには ---- 72
（3）着信の音量を調節するには ---- 72
6 ディスプレイの濃淡を調節するには ---- 72
7 電話機のアラーム機能を使うには（時刻アラーム） ---- 73
8 キータッチトーンを調節するには ---- 73
9 ディスプレイの年月日・時刻を調節するには ---- 74
10 回線（外線）の信号種別を変更したいとき ---- 74

10．通話料金の管理について ---- 75
1 度数・通話時間・料金の表示について ---- 75
（1）度数表示 ---- 75
（2）通話時間と料金表示 ---- 75
2 通話料金を集計表示するには ---- 76
3 通話料金の予算表示について ---- 77
（1）予算と実績を表示するには ---- 77
（2）予算を設定するには ---- 78

11．周辺機器との接続について ---- 79
1 ファクシミリとの接続 ---- 79
（1）外線側への接続 ---- 79
（2）内線側への接続 ---- 79
（3）ＦＮＩによる接続 ---- 79
（4）ファクシミリ状況表示 ---- 79
2 構内放送装置との接続 ---- 80
（1）構内放送をするには（放送結合） ---- 80
（2）構内放送で呼出しを受けたときには（放送結合呼出し応答） ---- 80

3 ドアホンとの接続 ---- 81
（1）ドアホンの呼出しに応答するには（ドアホン着信応答） ---- 81
（2）ドアホンに出ず音声を聞くには（ドアホンモニタ） ---- 81
（3）ドアホンで呼出すには（ドアホン呼出し） ---- 81
4 プリンタとの接続 ---- 82
（1）課金情報の出力 ---- 82
（2）内線毎料金の出力 ---- 83
5 ヘッドセットとの接続 ---- 83
（1）電話のかけかた ---- 83
（2）電話の受けかた ---- 83
6 外部保留音との接続 ---- 84
7 単独電話機との接続 ---- 84
8 録音装置との接続 ---- 84
9 高音量ベルとの接続 ---- 84
10 ボイスポスト（音声メール装置）との接続 ---- 84

12. ＩＳＤＮ回線の利用 ---- 85
1 ＩＳＤＮ回線への発信 ---- 85
（1）普通にかけるには ---- 85
（2）直接内線電話機にかけるには（着サブアドレス付加発信） ---- 86
2 ＩＳＤＮ回線からの着信 ---- 87
（1）普通に受けるには（任意外線応答） ---- 87
（2）サブアドレス表示の受けかた（着サブアドレスＤＩＤ） ---- 87

13. デジタルコードレスシステム ---- 88
1 子機からの発信方法 ---- 88
2 子機で着信に応答するには ---- 89
3 通話を転送するには ---- 89
4 外線通話中にフッキング信号を送出するには ---- 89
5 アダプタシステムでの条件 ---- 90
6 圏外時に別の内線／外線に転送するには ---- 90
7 選択転送先を登録するには ---- 91
8 ＰＳ一斉着信 ---- 91
9 準公衆システム ---- 91

14. ＰＣ＆ＴＥＬの収容 ---- 92
15. ＮＴＴナンバーディスプレイ機能の利用 ---- 92
16. ＩＳＤＮ内線の利用 ---- 95
17. 地域系ＮＣＣの利用 ---- 95

● 付　録 ---- 96
1 音の種類一覧 ---- 96
2 キーとランプの表示一覧 ---- 96
3 機能キーの一覧 ---- 97

●はじめに

このたびは、リコーメディアコネクションDoシリーズをお買い求めいただき、誠にありがとうございました。
本書は、リコーメディアコネクションDoシリーズの機能を十分にお使いいただくための使用説明書です。お使いになる前に、ひと通りお読みになり正しい使いかたでご活用ください。

1 本書の内容について

●取扱いのご注意
お使いいただくうえで、ぜひ守っていただきたい注意事項を記載しています。

●システムの概要
リコーメディアコネクションDoシリーズと回線、および主装置との接続形態を示しています。

1．各部の名称と説明
各部の名称とその働きを説明しています。覚えておくと、本書をお読みいただくときに役立ちます。

2．フレキシブルキーとランプの説明
フレキシブルキーにあらかじめ割付けられている機能を説明しています。また、ランプの点灯・点滅について記載されています。

3．電話のかけかた
外線、内線への電話のかけかたを説明しています。また外線、内線、それぞれ特有なかけかたも説明しています。

4．電話の受けかた
外線、内線での電話の受けかたを説明しています。

5．夜間や留守番のときに便利な機能
夜間などで事務所が小人数になったとき、また、事務所に誰もいなくなったときに便利な機能を説明しています。

6．保留のしかた
通話相手に一時お待ちしていただく保留機能について説明しています。

7．転送のしかた
通話中の電話を他の電話機につなぎかえる、転送機能について説明しています。

8．その他の便利な機能
覚えておくと便利な機能について説明しています。たとえば、3人以上で通話する場合や、離席するときに便利な機能などです。

9．電話機を便利に使うには
フレキシブルキーへ各種機能を割付ける、受話器の音量調節のしかたなどを説明しています。

10. 通話料金の管理
通話料金の表示、通話料金の集計、通話料金の予算設定などを説明しています。

11. 周辺機器との接続について
ファクシミリ、構内放送装置、ドアホンなどいろいろな周辺機器を接続して、できることを説明しています。

12. ＩＳＤＮ回線の利用
ＩＳＤＮ回線での電話のかけかたと、受けかたを説明しています。

13. デジタルコードレスシステム
ＰＨＳ子機での操作方法を説明しています。

14. ＰＣ＆ＴＥＬ
ＰＣ＆ＴＥＬの機能を説明しています。

15. ＮＴＴナンバーディスプレイ機能の利用
ＮＴＴの新サービスである、ナンバーディスプレイを利用したサービスについて説明しています。

16. ＩＳＤＮ内線の利用
ＩＳＤＮ内線としてＴＡなどを接続して利用できる機能を説明しています。

17. 地域系ＮＣＣの利用
東京電話などの地域系ＮＣＣを利用したＬＣＲ機能を説明しています。

（注）項番 14 ～ 17 の詳細は販売店にご相談ください。

● 付　録
受話器またはスピーカから聞こえる音の種類と、キーとランプの関係を説明しています。

2 本書のみかた

本書でキーについては次のように書かれています。

○ (　) キーについて

フレキシブルキーに機能を割付けるには（P. 68）で割付られたことを現し、括弧内の文字は割付けられた機能名を現します。また、ＤＳＳキーとして内線電話番号が登録（P. 61）されたことを現します。

○ (　) キーについて

保守用電話機でフレキシブルキーに割付けられる外線キー、発信キー、ドアホンキー、パークキー、応答キーを現します。

○ [　] キーについて

[　] キーは固定キーを現します。各部の名称と説明の中の[　]キーに対応しています。

○適用バージョンについて

機能毎に（VX.Xより適用）というような記述がある場合は、それ以降のバージョンも適用されると解釈してください。

お客様のバージョンについては、販売店にお問合わせいただくか、下記の手順でご確認いただけます。

- （受話器をあげないで）→ [保留] →[※] →（適用バージョンの表示：B. X. X. △と表示） ここでX. Xが適用バージョンとなります。

電話機をもとに戻す場合は、[スピーカ] キーを押してください。

○ 

マークについて

参考になることを説明しています。

○  マークについて

こんな使い方もできることを説明しています。

●取扱いのご注意

○本電話機に登録されたデータは、故障・修理のときに消失する場合があります。
重要なデータは必ず別の記憶装置、あるいは紙などに控えておいてください。
本事項に関する障害については、弊社では一切その責任をおいかねますので、
あらかじめご承知願います。

○主装置や配線ケーブルは、ＯＡ機器、テレビジョン、ラジオなどから３ｍ以上
離してご使用ください。
→雑音発生などの原因となります。

○電源コンセントは、パソコン、コピー機などのＯＡ機器や電子レンジ、エアコ
ンなどの電力の大きな家庭電気製品および、工作機械などとの同一使用はさけ
てください。
本電話機専用の電源コンセントを設け、そこからＡＣ100Ｖをとってください。
なお、電源コンセントには、ＡＣ 100 Ｖ以外は絶対に接続しないでください。
→装置の重大な故障の原因になることがあります。

○主装置や電話機を清掃するときは、揮発性のあるシンナーやアルコールおよび、
シリコン系のクリーナなどの使用は絶対にさけてください。
水を含んだ布をかたくしぼって拭いた後、柔らかい布でからぶきしてください。
→変色・変形の原因になることがあります。

○主装置や電話機本体は、絶対に開けないでください。
→製品の保証は致しかねます。

○主装置や電話機、端子やコネクタ類には水などをかけないでください。また、
電話機を湿気の多い場所などには設置しないようにしてください。
→動作不良など故障の原因となります。

○放送局のアンテナ近く（２Ｋｍ以内）や、ＣＢ無線、漁業無線の交信が多い場
所（国道沿い、港の近く）で雑音が発生する場合は、販売店にご相談ください。

○雷の多い地域において、雷対策を実施する場合には販売店にご相談ください。

●システムの概要

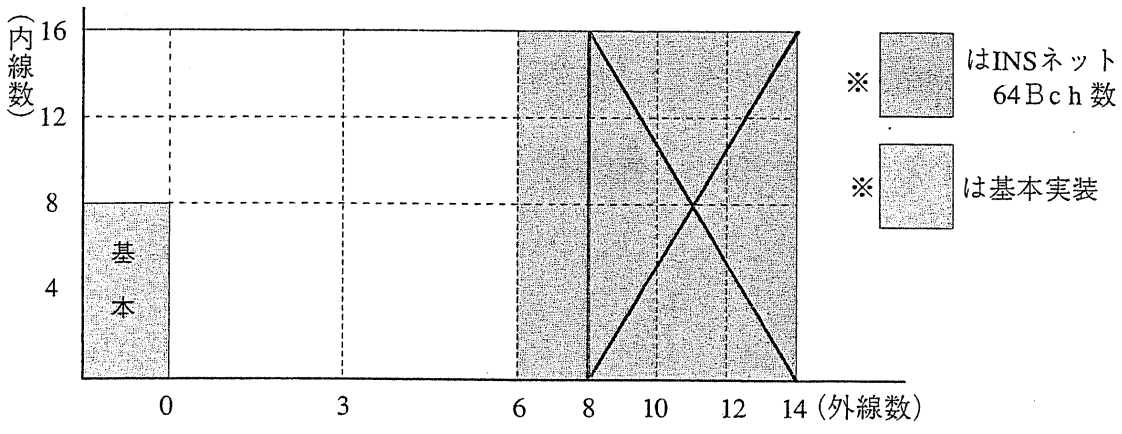
本機は、ビジネス向けのオールデジタル電子ボタン電話システムで、ＮＴＴの公衆回線および、構内交換機（ＰＢＸ）の内線に接続して使います。アナログ専用線の収容も可能です。

（最大回線容量）

		Do主装置	Do主装置＋拡張機能ボックス
総回線ポート数		22	30
内線系	多機能内線	16	
	アナログ内線	4	
	ＩＳＤＮ内線	4（8ch）	
	総内線数	16	
外線系	アナログ外線	6	
	ＩＮＳネット64	4（8ch）	
	ＬＤ専用線	－	4
	ＯＤ専用線	－	8
	総外線数	6（8ch）	
ドアホン		4（同時通話２）	

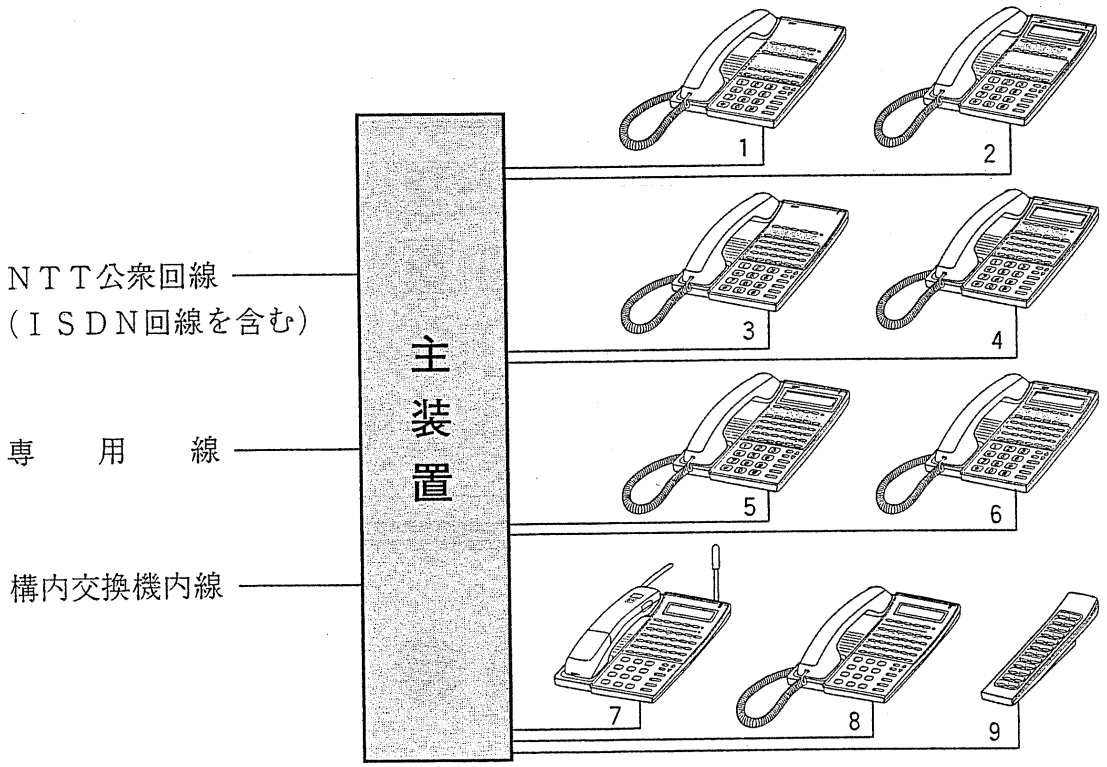
※拡張機能ボックス
主装置に増設するボックスで専用線、ボイスポストを収容する場合等に必要です。

○回線収容数



本機の専用多機能電話機には、次の機種があり、システム規模や使い勝手に合わせてお選びいただくことができます。

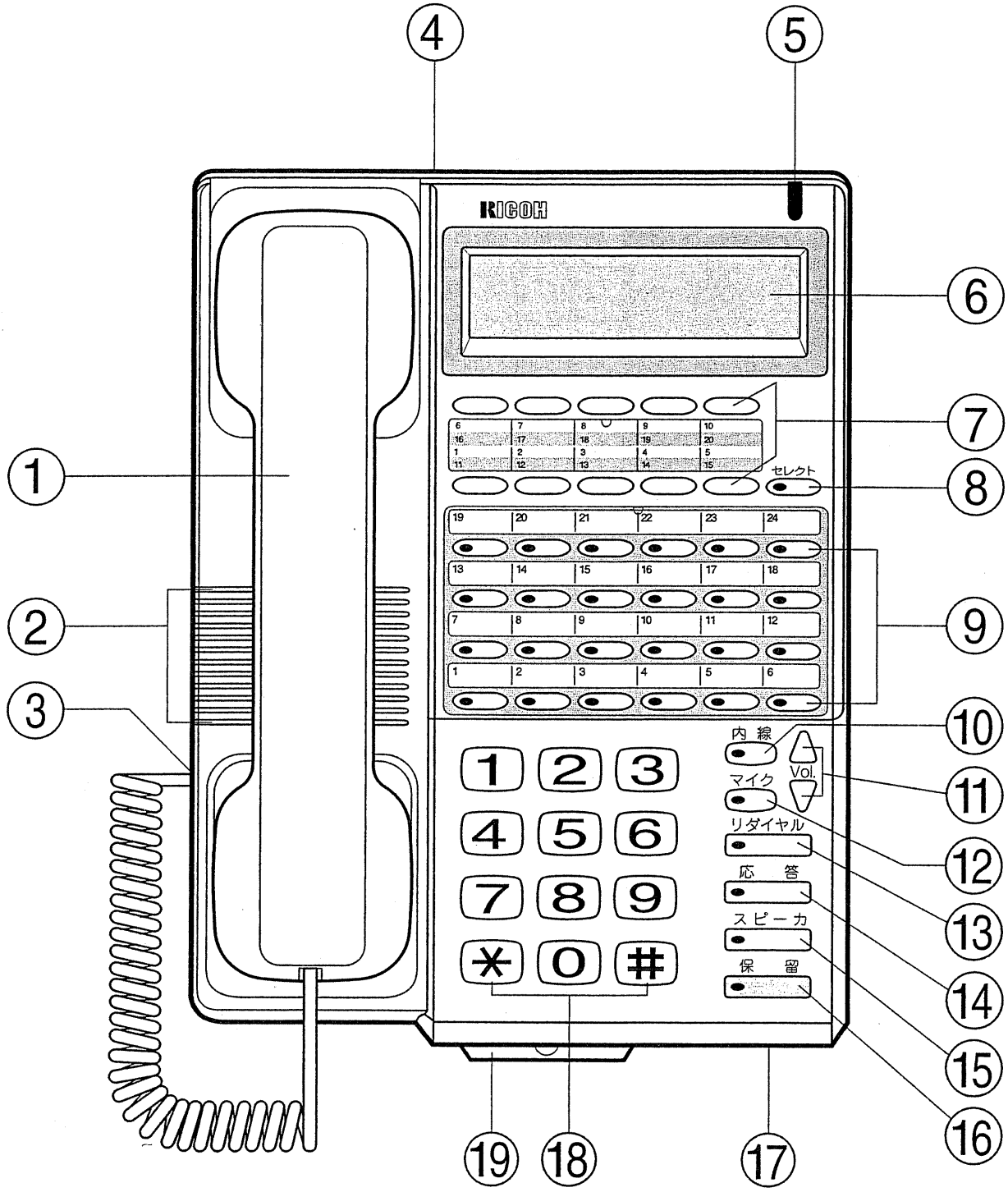
	品　名	フレキシブルキー	表示	停電対応	録音端子	高音量ベル	ACアダプタ	ヘッドセット	備　考
1	Do12 標準電話機	12 個	×	×	×	×	×	×	標準タイプ
2	Do12 表示付電話機	12 個	○	×	×	×	×	×	ディスプレイ付きタイプ
3	Do24 標準電話機	24 個	×	×	×	×	×	×	標準タイプ
4	Do24 表示付電話機	24 個	○	×	×	×	×	×	ディスプレイ付きタイプ
5	Do24 停電用表示付電話機	24 個	○	○	○	○	×	○	停電用ディスプレイ付きタイプ
6	Do24 ISDN 停電用表示付電話機	24個	○	○	~~×~~	~~×~~	×	○	ＩＮＳネット64 停電用ディスプレイ付きタイプ
7	24 カールコードレス電話機	親機 24 個 子機 6個	○	×	×	×	×	×	カールコードレスタイプ
8	24 OA インターフェース付電話機	23 個	○	×	×	×	○	×	アナログポート付きタイプ （単独電話が接続可能） ＡＣアダプタは添付
9	24 集中受付装置	24 個	×	×	×	×	×	×	増設キーユニット



＜システム管理電話機について＞

システム短縮ダイヤルの登録（P. 23）、通話料金の予算設定（P. 78）などを行うときに使用する電話機です。システム管理電話機を取付け時に設定しておきます。初期設定では、最若番収容内線に設定されます。

1．各部の名称と説明



参考

○フレキシブルキーが24個、12個の機種があります。

①受　　話　　器　：こちらの声を伝えたり、相手の声を聞くときに使います。
②ス　ピ　ー　カ　：着信音や相手の声を聞くことができます。
③受話器用ジャック　：受話器またはヘッドセットを接続します。
④「ＬＩＮＥ」端子　：主装置からの電話回線を接続します。
⑤「着信／ＭＢＸ」・ランプ：自分のメールボックスにメールが届いているとき、点灯します。自分の電話に着信があると点滅します。
⑥ディスプレイ　：電話機を使うための操作案内や、登録・設定画面などを表示します。
⑦[ワンタッチ]キー　：ワンタッチで外線や内線に電話をかけることができます。ワンタッチキーには上面と下面があり、それぞれに電話番号を登録できます。上面と下面の切替えはセレクトキーで行います。相手先名称を登録するときも使います。
⑧[セレクト]キー・ランプ　：ワンタッチキーの上面と下面を切替えるとき使います。ランプ点灯中はワンタッチキーの下面にあたります。
⑨[フレキシブル]キー・ランプ　：外線キー、ＤＳＳキー、代理応答キー、集中着信キーなど、いろいろな機能を割付けて使います。
⑩[内線]キー・ランプ　：内線に電話を転送するときに使います。
⑪[Vol.]キー　：スピーカ受話のとき、スピーカの音量を調節できます。受話器をあげているときは、受話音量を調節できます。
⑫[マイク]キー・ランプ　：受話器をあげずに応答するときに押します。そのときランプは赤く点灯します。(内線ハンズフリー応答)
⑬[リダイヤル]キー・ランプ：最後にかけた電話番号にかけ直すときに押します。
⑭[応答]キー・ランプ　：外線キーを押さなくても、外線着信に応答できます。
⑮[スピーカ]キー・ランプ：受話器をあげずにダイヤルするときに使います。また、受話器の代わりに相手の音声を聞くときに使います。ランプは赤く点灯します。
⑯[保留]キー・ランプ　：通話中の相手に一時待ってもらうときに押します。もう一度押すと、通話を再開できます。また、各種登録をするときにも使います。
⑰マ　　イ　　ク　：相手に音声を送るときに「マイク」キーを押して使います。
⑱「ダイヤル」キー　：電話をかけたり、登録や設定のときに使います。
⑲短縮ダイヤルカード　：短縮ダイヤルに登録された名前を書いておきます。

2．フレキシブルキーとランプの説明

1 フレキシブルキーについて

フレキシブルキーには外線キー、オートダイヤルキー、システム短縮ダイヤル番号キー、ＤＳＳキー、機能キー（代理応答キー、集中着信キー）など、いろいろな機能を割付けて使うことができます。

フレキシブルキーが12キー、24キーの電話機があります。電話機によりフレキシブルキー番号には、あらかじめ次のような機能と外線番号が割付けられています。

割付けの追加または変更は、「フレキシブルキーに機能を割付けるには（P. 68）」をご参照ください。

Ｆ１：リピート　　Ｆ２：[秘] 解除／会議
Ｆ３：アラーム　　Ｆ４：ＰＢ信号
Ｆ５：短縮　　Ｆ６：ＬＣＲ停止

○24キー電話機

19	20	21	22	23	24
13	14	15	16	17	18
7 Ｆ１	8 Ｆ２	9 Ｆ３	10 Ｆ４	11 Ｆ５	12 Ｆ６
1 外線 1	2 外線 2	3 外線 3	4 外線 4	5 外線 5	6 外線 6

○12キー電話機

7 Ｆ１	8 Ｆ２	9 Ｆ３	10 Ｆ４	11 Ｆ５	12 Ｆ６
1 外線 1	2 外線 2	3 外線 3	4 外線 4	5 外線 5	6 外線 6

2 フレキシブルキーのランプについて

フレキシブルキーのランプは赤、緑、橙で点灯または点滅します。また、緑と橙を交互に点滅することもあります。

（1）外線キーまたは、ＭＳＡキーとして割付けられている場合

色	点　灯	速い点滅	遅い点滅	消灯
赤	・他人が使用中 ・転送電話使用中 ・留守応答使用中	・一般着信	・秘話解除（他）	未使用
緑	・自己使用中 ・保留転送中 ・会議通話中	・保留（他）	・外線キャンプオン （転送元）	
橙	・強制転送不可保留 （強制転送あり）	・DIL/DID 着信 ・外線キャンプオン （転送先）	・秘話解除（自）	
緑橙交互		・保留タイムアウト（自） （保留） （自己保留） （着信ウェイト） （最終保留）	・保留中（自） ・自己保留中（自） ・着信ウエィト中 ・最終保留中（自）	


参考

○（他）は他内線
○（自）は本操作を行なった人

（2）ファンクションキーとして割付けられている場合

機能名	動作中	未動作
オートリピート ダイヤルメモリ 夜間切替 集中着信 指定外線転送 自己保留（外線と同じ表示） 不在設定 ＰＢ信号 予約 不在転送 ＬＣＲ停止 クラス切替 着信ウェイト（外線と同じ表示） 割込み アラーム 秘話解除／会議	ファンクションキー・ランプは赤く点灯。	ファンクションキー・ランプは消灯。

（3）ＤＳＳキーとして割付けられている場合

赤く点灯	赤く点滅	消　灯
内線電話機が使用中	内線電話機からの着信中	内線電話機は未使用

（4）発信キーとして割付けられている場合

○赤い点灯

現在発信できる外線は、すべてが使用中です。

○消灯

外線に発信できます。

（5）応答キーまたは、ＤＧＬキーとして割付けられている場合

○赤の速い点滅

着信中です。

（6）パークキーとして割付けられている場合

外線の保留表示と同じです。

○緑の速い点滅

保留中（他人）です。

○緑と橙の遅い交互点滅

自分で保留中です。

○緑と橙の速い交互点滅

自分で保留した、パーク保留が長時間保留となった場合です。

（7）ドアホンキーとして割付けられている場合

○赤い点灯

使用中です。

○橙の点灯

ドアホンモニタ中です。

○赤の速い点滅

着信中です。

（8）通話録音キーとして割付けられている場合

○赤い点灯

録音中です。録音内容を残すメールボックス番号を入力する必要があります。

○緑の点灯

指定されたメールボックスに録音中です。何もメールボックス番号を入力しない場合は、自分のメールボックスが指定されます。

○橙の点灯

着信自動録音が登録されている状態です。

（9）メールボックスキーとして割付けられている場合

○赤い点灯

メッセージが1件以上保存されています。

○緑の遅い点滅

新規メッセージが1件以上保存されている状態です。

○消灯

メッセージはありません。

3．電話のかけかた

1 外線にかけるには

（1）普通にかけるには（任意外線発信）

外線ランプの消えている（外線）キーを押し、次に電話番号をダイヤルします。

1 受話器をあげます。 ○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 たとえば外線ランプが消えている、（外線1番）キーを押します。 ○外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。 ○外線1番のランプは緑で点灯し、他の電話機の外線1番のランプは赤く点灯します。
3 相手の電話番号をダイヤルします。
4 相手が応答すると、通話ができます。
5 通話終了後、受話器を戻します。 ○すべての外線1番のランプは消灯します。

参考

工事設定により、次のかけかたもできます。 工事については、販売店にご相談ください。

○（外線）キーの代わりに（発信）キーでも外線とつながります。
操作手順2で（発信）キーを押した後、相手の電話番号をダイヤルします。

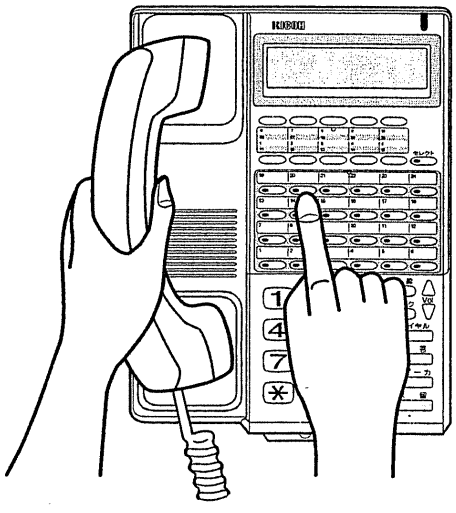
○（外線）キーの代わりに「0」発信でも外線とつながります。（ルート選択発信）
操作手順2で「0」をダイヤルした後、相手の電話番号をダイヤルします。

○（外線）キーを押さずに、外線とつながります。（オフフック外線自動捕捉）
受話器をあげ発信音「ツー」を確かめ、相手の電話番号をダイヤルします。

○（発信）キーのランプが点灯しているときは、外線が全て使われています。 ランプが消えるまでお待ちください。

○ＮＴＴのナンバーディスプレイサービスを使用して相手にかける場合、 自分の電話番号を通知したくない場合（いわゆる184発信）、相手の電話番号をダイヤルする前に（非通知）キーを押すことで、184発信となります。

○受話器をあげると、自動的に使用していない外線で発信できる設定もあります。このような設定の場合は、操作手順2を省略して発信します。
（オフフック外線自動捕捉）



（2）ワンタッチキーでかけるには（オートダイヤル）

[ワンタッチ]キーを押すだけで、電話番号がダイヤルされます。

- 1つの[ワンタッチ]キーには上面と下面があり、2つの[ワンタッチ]キーとして機能します。[ワンタッチ]キーの（1～10）までが上面、（11～20）が下面です。
- 上面と下面の切替えは、[セレクト]キーで行います。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 たとえば外線ランプが消えている、(外線1番)キーを押します。
　○外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
　○外線1番のランプは緑で点灯し、他の電話機の外線1番のランプは赤く点灯します。

3 [ワンタッチ]キーを押します。
　○セレクトランプが消えているときは、上面の電話番号をダイヤルします。
　○[セレクト]キーを押し、ランプを点灯（赤）させてから[ワンタッチ]キーを押すと、下面の電話番号がダイヤルされます。

4 相手が応答すると、通話ができます。

5 通話終了後、受話器を戻します。
　○すべての外線1番のランプは消灯します。

参考

工事設定により、次のかけかたもできます。工事については、販売店にご相談ください。

○(外線)キーの代わりに(発信)キーでも外線とつながります。
操作手順2で(発信)キーを押した後、[ワンタッチ]キーを押します。

○(外線)キーの代わりに「0」発信でも外線とつながります。（ルート選択発信）
操作手順2で「0」をダイヤルした後、[ワンタッチ]キーを押します。

○(外線)キーを押さずに、外線とつながります。（オフフック外線自動捕捉）
受話器をあげ発信音「ツー」を確かめ、[ワンタッチ]キーを押します。
（操作手順2が省略できます。）

○フレキシブルキーにシステム短縮ダイヤル（P. 69）または、オートダイヤルが登録されていれば、操作手順3でフレキシブルキーを押しても電話をかけることができます。

○NTTのナンバーディスプレイサービスを使用して相手にかける場合、自分の電話番号を通知したくない場合（いわゆる184発信）、[ワンタッチ]キーを押す前に(非通知)キーを押すことで、184発信となります。

＜ワンタッチキーに電話番号を登録するには＞

- [ワンタッチ] キーには、上面（1～10）と下面（11～20）で合計20個の電話番号が登録できます。
  セレクトランプ消灯で上面に、ランプ点灯（赤）で下面に登録されます。
- 上面と下面の切替えは、[セレクト] キーで行います。
- 最大32桁までの電話番号が登録できます。

1 [保留] キーを押します。
2 [ワンタッチ] キーの上面または下面に登録するか、[セレクト] キーで切替えます。
　○セレクトランプ消灯で上面に、ランプ点灯（赤）では下面に登録されます。
3 [ワンタッチ] キーを押します。
4 番号種別をダイヤルします。
　○公衆回線は、「0」をダイヤルします。
　○内線および専用線は、「1」をダイヤルします。
　○構内交換機に収容されている内線、および専用線は「2」をダイヤルします。
5 登録する電話番号をダイヤルします。
6 [保留] キーを押します。
　○登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
　○登録できない場合は、「ピーピー」と鳴ります。このときは、操作手順2からはじめます。登録を続けるときも、操作手順2からはじめます。
7 [スピーカ] キーを押します。

参考

○ポーズ信号は [応答] キーで登録でき、1桁としてあつかわれます。
○登録するダイヤルがＬＣＲ機能を働かせないようにする場合、電話番号のダイヤルの前に ((ＬＣＲ停止)) を登録します。
○登録するダイヤルが相手にナンバーディスプレイを行いたくない場合、電話番号のダイヤルの前に ((非通知)) を登録します。
○操作の4と5の代わりに [リダイヤル] キーを押すと、リダイヤルの内容が [ワンタッチ] キーに登録できます。

＜電話番号を削除するには＞

1 [保留] キーを押します。
2 [ワンタッチ] キーの上面または下面の電話番号を削除するか、[セレクト] キーで切替えます。
　○セレクトランプ消灯で上面、ランプ点灯（赤）では下面の電話番号が削除されます。
3 [ワンタッチ] キーを押します。
4 [保留] キーを押します。
　○削除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
　○削除できない場合は、「ピーピー」と鳴ります。このときは、操作手順2からはじめます。削除を続けるときも、操作手順2からはじめます。
5 [スピーカ] キーを押します。

（3）システム短縮ダイヤルでかけるには（システム短縮ダイヤル）

システム管理電話機で登録されたシステム短縮ダイヤルで、電話をかけることができます。システム短縮番号検索によるかけかたと、相手先名称検索によるかけかたがあります。

＜システム短縮番号検索によるかけかた＞

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 (短縮) キーを押します。

3 たとえばシステム短縮番号「１１１」をダイヤルします。
　○ディスプレイ下段に電話番号を表示します。

１２３－４５６－７８９０

　○電話番号を表示すると同時に、自動的に外線とつながりダイヤルをはじめます。

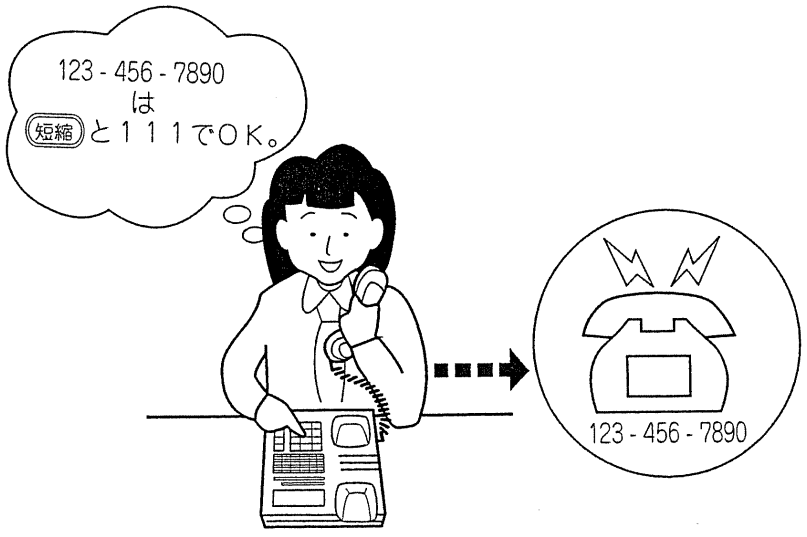
4 相手が応答すると、通話ができます。

5 通話終了後、受話器を戻します。

参考

○ (短縮) キーと短縮番号で発信した場合は、ネーム登録されている相手先でも、ディスプレイにはネーム表示されません。
（ネームによる発信の場合は、P. 22 を参照）

○ＮＴＴのナンバーディスプレイサービスを使用して相手にかける場合、自分の電話番号を通知したくない場合は、(短縮) キーを押す前に (非通知) キーを押すことにより 184 発信となります。



＜相手先名称検索によるかけかた＞

1 (短縮) キーを押します。

2 [ワンタッチ] キーの4（ネーム）を押します。
○ディスプレイ下段に「ア行」を表示します。

```
ネームケンサク
   ア イ ウ エ オ
```

○ [ワンタッチ] キーの6～10が、「ア」～「オ」に対応しています。
○ [ワンタッチ] キーの2（後スクロール）を押すと、「カ行」が表示されます。さらに押すと「サ行」、「ナ行」と後スクロールをします。
○ [ワンタッチ] キーの1（前スクロール）で「ア行」表示に戻る、前スクロールをします。

3 たとえば [ワンタッチ] キーの7を押すと、先頭文字が「イ」ではじまる相手先を表示します。

```
111:イケダ
   123-4567-7890
```

○ [ワンタッチ] キーの1（前スクロール）と [ワンタッチ] キーの2（後スクロール）で、「イ」ではじまる相手先を検索できます。

4 (発信) キーを押すか、外線ランプが消えている、(外線) キーを押します。
○外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
○外線ランプは緑で点灯し、他の電話機の外線ランプは赤く点灯します。

5 相手が応答すると、通話ができます。

6 通話終了後、受話器を戻します。

＜システム短縮ダイヤルを登録するには＞

- システム短縮ダイヤルに登録できるのは500ヶ所までです。
- システム短縮番号は000～999の番号の中で、お好きな番号を500まで選んで使用できます。
- 最大32桁までの電話番号が登録できます。
- 相手先の名称をカタカナ、英字などで12文字まで登録できます。
- 相手先の名称を登録すると、名称と電話番号を確かめてから電話がかけられます。また、システム短縮番号を忘れても名称で相手先が検索できます。
- システム管理電話機で電話番号の登録をします。

1 システム管理電話機の [保留] キーを押します。
2 (短縮) キーを押します。
3 システム短縮番号を3桁ダイヤルします。
　○システム短縮番号は000～999の中でお好きな番号を500まで選んで使用できます。
4 番号種別をダイヤルします。
　○公衆回線は、「0」をダイヤルします。
　○内線および専用線は、「1」をダイヤルします。
　○構内交換機に収容されている内線、および専用線は「2」をダイヤルします。
5 登録する電話番号をダイヤルします。
6 [ワンタッチ] キーの4（ネーム）を押します。
　○ディスプレイ上段に短縮番号を表示し、下段に「ア行」を表示します。

100： ア イ ウ エ オ

7 [ワンタッチ] キーの7を押すと「イ」が選ばれ、ディスプレイの上段に「イ」が表示されます。
　○「ワンタッチ」キーの6～10が、「ア」～「オ」に対応しています。

100：イ ア イ ウ エ オ

8 [ワンタッチ] キーの2（後スクロール）を押すと、「カ行」が表示されます。さらに押すと「サ行」、「ナ行」と後スクロールをします。

100：イ カ キ ク ケ コ

　○ [ワンタッチ] キーの1（前スクロール）で「ア行」表示に戻る、前スクロールをします。
　○ [ワンタッチ] キーの5（バックスペース）で、ディスプレイ上段の右端の文字を消すことができます。
　○ [ワンタッチ] キーの3（ネームクリア）で、表示されている文字を全て消すことができます。
9 名称の登録が終わったら、[保留] キーを押します。
　○登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
　○登録できない場合は、「ピーピー」と鳴ります。このときは、操作手順2からはじめます。登録を続けるときも、操作手順2からはじめます。
10 [スピーカ] キーを押します。

参考
○電話機をグループに分け、システム短縮番号を２桁にすることができます。詳しくは、販売店にご相談ください。
○相手先名称を登録しない場合は、操作手順６～８を省略します。

○ポーズ信号は 応答 キーで登録でき、１桁としてあつかわれます。
○登録するダイヤルがＬＣＲ機能を働かせないようにする場合、電話番号のダイヤルの前に (ＬＣＲ停止) を登録します。
○登録するダイヤルが相手にナンバーディスプレイを行いたくない場合、電話番号のダイヤルの前に (非通知) を登録します。

＜登録したシステム短縮番号を確認するには＞

1 システム管理電話機の 保留 キーを押します。
2 (短縮) キーを押します。
3 たとえば確認するシステム短縮番号「111」をダイヤルします。
○ディスプレイ上段にシステム短縮番号と電話番号が表示されます。

```
111:123-456-7890
      ﾊﾞﾝｺﾞｳｼｭﾍﾞﾂ:
```

4 スピーカ キーを押します。

参考
○全ての番号を確認できない場合があります。

＜登録したシステム短縮番号を削除するには＞

1 システム管理電話機の 保留 キーを押します。
2 (短縮) キーを押します。
3 たとえば削除するシステム短縮番号「111」をダイヤルします。
○ディスプレイ上段にシステム短縮番号と電話番号が表示されます。

```
111:123-456-7890
      ﾊﾞﾝｺﾞｳｼｭﾍﾞﾂ:
```

4 表示を確かめて 保留 キーを押します。
○削除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
○削除できない場合は、「ピーピー」と鳴ります。このときは、操作手順３からはじめます。削除を続けるときも、操作手順３からはじめます。
5 スピーカ キーを押します。

（4）最後にかけた相手に再度かけるには（リダイヤル）

最後にかけた電話番号は、次に電話をかけるまで [リダイヤル] キーに記憶されます。 [リダイヤル] キーで記憶されている電話番号に再度かけることができます。
外線／専用線のみ記憶します。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 たとえば外線ランプが消えている、(外線1番) キーを押します。
　○外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
　○外線1番のランプは緑で点灯し、他の電話機の外線1番のランプは赤く点灯します。

3 [リダイヤル] キーを押します。

4 相手が応答すると、通話ができます。

5 通話終了後、受話器を戻します。
　○すべての外線1番のランプは消灯します。

参考
工事設定により、次のかけかたもできます。工事については、販売店にご相談ください。
○ (外線) キーの代わりに (発信) キーでも外線とつながります。
　操作手順2で (発信) キーを押した後、相手の電話番号をダイヤルします。
○ (外線) キーの代わりに「0」発信でも外線とつながります。（ルート選択発信）
　操作手順2で「0」をダイヤルした後、相手の電話番号をダイヤルします。
○ (外線) キーを押さずに、外線とつながります。（オフフック外線自動捕捉）
　受話器をあげ発信音「ツー」を確かめ、相手の電話番号をダイヤルします。
　（操作手順2が省略できます。）



（5）最後に応答した相手に電話をするには（着信リダイヤル）

ナンバーディスプレイサービスで通知された外線番号を記憶し、[リダイヤル] キーでかけ直しができます。（操作方法はリダイヤルと同じです。）
着信リダイヤルが有効な場合は、[リダイヤル] キーのランプが赤で点灯します。

参考
この機能を使うにはハードオプションと工事設定が必要ですので、販売店にご相談ください。
○着信リダイヤルが有効なとき、別な所へ発信すると、着信リダイヤルの記憶内容は消えてしまいます。
○着信リダイヤルの記憶内容を、[ワンタッチ] キーなどにコピーできます。 コピーする方法は ＜ワンタッチキーに電話番号を登録するには（P. 20）＞ の操作手順の4～5の代わりに [リダイヤル] キーを押します。

2 便利な外線発信機能

（1）受話器を戻さずにかけ直すには（クイックリダイヤル）

相手が話中の場合、受話器を戻さずに [リダイヤル] キーで、かけ直しができます。

1 話中音「プープープー」が受話器から聞こえます。
2 受話器を戻さずに、[リダイヤル] キーを押します。
　○先ほどと同じ電話番号がダイヤルされます。
3 相手が応答すると、通話ができます。
4 通話終了後、受話器を戻します。

（2）かけ直しを繰り返すには（オートリピート）

相手が話中の場合、かけ直しを自動的に2回までできます。

1 話中音「プープープー」が受話器から聞こえます。
2 受話器を戻さずに、(リピート) キーを押します。
　○リピートランプは赤く点灯します。
　○先ほどと同じ電話番号がダイヤルされます。
　○応答がない場合は、再度電話番号がダイヤルされます。
3 [スピーカ] キーを押し、受話器を戻して相手の応答を待ちます。
4 相手の応答する声が、「スピーカ」から聞こえます。
　○通話ができる状態です。
　○リピートランプは消灯します。
5 受話器をあげて通話します。
6 通話終了後、受話器を戻します。

参考
○ (リピート) キーを再度押すと、オートリピート機能は解除されます。
○受話器をあげないオンフックダイヤル（P. 53）でも、オートリピート機能は使えます。この場合は、応答する声が「スピーカ」から聞こえたら受話器をあげます。

（3）ダイヤルメモリでかけるには（ダイヤルメモリ）

ダイヤルメモリに登録された電話番号で、電話をかけることができます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 (発信) キーを押すか、外線ランプが消えている、(外線) キーを押します。
　○外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
　○外線ランプは緑で点灯し、他の電話機の外線ランプは赤く点灯します。

3 (ダイヤルメモリ) キーを押します。
　○ダイヤルメモリに登録された電話番号をダイヤルします。

4 相手が応答すると、通話ができます。

5 通話終了後、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

＜ダイヤルメモリに電話番号を登録するには＞

通話中または、通話中でなくともダイヤルメモリに電話番号を登録できます。

•最大32桁までの電話番号が登録できます。

•あらたに電話番号を登録すると、前の電話番号は消去されます。

1　通話中に (ダイヤルメモリ) キーを押します。
　○ダイヤルメモリランプは赤く点灯します。
2　登録する電話番号をダイヤルします。
3　[保留] キーを押します。
　○電話番号が登録されます。
　○ダイヤルメモリランプは消灯します。

参考
○通話中でない場合に登録する場合は、操作手順1の前に [保留] キーを押します。（受話器をあげてはいけません。）また操作手順3の後は [スピーカ] キーを押します。
○ポーズ信号は [応答] キーで登録でき、1桁としてあつかわれます。
○登録するダイヤルがＬＣＲ機能を働かせないようにする場合、電話番号のダイヤルの前に (ＬＣＲ停止) を登録します。
○登録するダイヤルで発信電話番号表示を行いたくない場合、電話番号のダイヤルの前に (非通知) を登録します。

＜電話番号を消去するには＞

通話中または、通話中でなくとも電話番号は消去できます。

1　通話中に (ダイヤルメモリ) キーを押します。
　○ダイヤルメモリランプは赤く点灯します。
2　[保留] キーを押します。
　○登録されている電話番号は消去されました。
　○ダイヤルメモリランプは消灯します。

参考
○通話中でない場合に消去する場合は、操作手順1の前に [保留] キーを押します。（受話器をあげてはいけません。）また操作手順2の後は [スピーカ] キーを押します。

（4）別の電話機のダイヤルメモリを使ってかけるには（代理発信）

別の電話機のダイヤルメモリに登録されている電話番号を使って、電話をかける代理発信ができます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 代理発信特番をダイヤルします。（初期値は「1」、「2」です。）

3 自席の電話番号をダイヤルします。
　○自動的に外線とつながり、発信音は「ツー」に変わります。
　○つながった外線ランプは緑で点灯します。

4 相手が応答すると、通話ができます。

5 通話終了後、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。



通話中に聞き取った相手ファクシミリの電話番号を、ダイヤルメモリ（自席）に登録します。通話終了後、ファクシミリで代理発信特番の次に、相手ファクシミリの電話番号が登録された自席の内線番号をダイヤルします。
ファクシミリはダイヤルメモリに登録されている電話番号をダイヤルし、ファクシミリ通信をはじめます。
（注）ファクシミリなどの単独内線がオフフック外線自動捕捉の設定になっている場合、本機能は使用できません。

（5）外線予約をするには（発信予約）

すべての外線が使われているとき発信を予約しておくと、外線が空くと予約した電話機に電話がかけられることを知らせる呼出し音が鳴ります。

1 話中音「プープープー」が受話器から聞こえます。

2 予約 キーを押し、外線が空くのを待ちます。
　○予約ランプは赤く点灯します。

3 受話器をおろします。

4 予約した外線が空くと、外線が空いたことを知らせる呼出し音が鳴ります。

5 受話器をあげます。
　○外線とつながっている発信音「ツー」が聞こえます。
　○予約ランプは消灯します。

6 相手の電話番号をダイヤルします。
　○ワンタッチダイヤル、システム短縮ダイヤルも使えます。

7 相手が応答すると、通話ができます。

8 通話終了後、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

（6）電話番号を確認して発信するには（プリセットダイヤル）

相手の電話番号をダイヤルし、次に発信操作をします。

1 電話番号をダイヤルします。

2 (発信) キーを押すか、外線ランプが消えている、(外線) キーを押します。
○外線ランプは緑で点灯し、他の電話機の外線ランプは赤く点灯します。
○ダイヤルした電話番号が外線に出ていきます。

3 相手の応答する声が、「スピーカ」から聞こえます。
○通話ができる状態です。

4 受話器をあげて通話します。

5 通話終了後、受話器を戻します。
○外線ランプは消灯します。



○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

（7）ＮＣＣ回線を自動選択するには（ＬＣＲ発信）

複数のＮＣＣ回線と契約すると、相手電話番号により最も安い回線を自動的に選んで、電話をかけることができます。

また、地域系NCCを使ってLCR発信できます。



○この機能を使う場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

（8）ＮＣＣ回線を指定してかけるには（キャリヤ選択発信）

契約しているＮＣＣ回線を選択する４桁の番号をダイヤルして電話をかけます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 キャリア選択特番をダイヤルします。

3 キャリア番号をダイヤルします。
　○００４１：日本国際通信　　００６１：国際デジタル通信
　　００７０：ＫＤＤ　　００７７：第二電電
　　００８８：日本テレコム
　○キャリア番号をダイヤルすると、外線とつながります。

4 相手の電話番号をダイヤルします。

5 相手が応答すると、通話ができます。

6 通話終了後、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

参考 ○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順１の前で 内線 キーを押します。

（9）割引回線等の回線から優先して選択するには（割引回線優先捕捉）

ＮＴＴまたはＮＣＣの割引契約を結んだ回線から、自動的に選んで電話をかけることができます。

参考 ○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

3 内線にかけるには

（1）普通にかけるには（トーン呼出し）

呼出し音を鳴らして相手を呼出します。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 内線番号をダイヤルします。
3 相手が応答すると、通話ができます。
4 通話終了後、受話器を戻します。

参考 ○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。

（2）ワンタッチキーでかけるには（内線ワンタッチコール）

［ワンタッチ］キーを押すだけで、電話番号がダイヤルされます。

- ［ワンタッチ］キーは上面と下面があり、2つの［ワンタッチ］キーとして機能します。
- 上面と下面の切替えは、［セレクト］キーで行います。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 ［ワンタッチ］キーを押します。
　○セレクトランプが消えているときは、上面の電話番号をダイヤルします。
　○［セレクト］キーを押し、ランプを点灯（赤）させてから［ワンタッチ］キーを押すと、下面の電話番号がダイヤルされます。
3 相手が応答すると、通話ができます。
4 通話終了後、受話器を戻します。

参考 ○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。

＜ワンタッチキーに電話番号を登録するには＞

- [ワンタッチ] キーには、上面（1～10）と下面（11～20）で合計20個の電話番号が登録できます。セレクトランプ消灯で上面に、ランプ点灯（赤）で下面に登録されます。
- 上面と下面の切替えは、[セレクト] キーで行います。
- 最大32桁までの電話番号が登録できます。

1 [保留] キーを押します。
2 [ワンタッチ] キーの上面または下面に登録するか、[セレクト] キーで切替えます。
　○セレクトランプ消灯で上面に、ランプ点灯（赤）では下面に登録されます。
3 [ワンタッチ] キーを押します。
4 番号種別をダイヤルします。 外線は「0」
　○内線および専用線は、「1」をダイヤルします。
　○構内交換機に収容されている内線、および専用線は「2」をダイヤルします。
5 登録する内線電話番号をダイヤルします。
6 [保留] キーを押します。
　○登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
　○登録できない場合は、「ピーピー」と鳴ります。このときは、操作手順2からはじめます。登録を続けるときも、操作手順2からはじめます。
7 [スピーカ] キーを押します。


参考

○ポーズ信号は [応答] キーで登録でき、1桁としてあつかわれます。

＜電話番号を削除するには＞

1 [保留] キーを押します。
2 [ワンタッチ] キーの上面または下面の電話番号を削除するか、[セレクト] キーで切替えます。
　○セレクトランプ消灯で上面、ランプ点灯（赤）では下面の電話番号が削除されます。
3 [ワンタッチ] キーを押します。
4 [保留] キーを押します。
　○削除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
　○削除できない場合は、「ピーピー」と鳴ります。このときは、操作手順2からはじめます。削除を続けるときも、操作手順2からはじめます。
5 [スピーカ] キーを押します。

4 便利な内線発信機能

（1）ホットラインでかけるには（ホットライン）

受話器をあげるだけで、登録されている内線に電話をかけることができます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえ、しばらくすると「プルルルー」の呼出し音に変わります。

2 相手が応答すると、通話ができます。

3 通話終了後、受話器を戻します。


参考

○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。



○受話器から「ツーツー」の発信音が聞こえているときにダイヤルすると、別の内線にかけることができます。

（2）音声で呼出すには（内線音声呼出し）

呼出し音でなく、音声で相手を呼出します。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線番号をダイヤルします。
　○受話器から相手を呼出す音が聞こえます。

3「＊」をダイヤルします。

4 音声で相手を呼出します。
　○たとえば「田中さん、田中さん」と呼ぶと、相手電話機の「スピーカ」から呼びかける音声が流れます。

5 相手が応答すると、通話ができます。

6 通話終了後、受話器を戻します。


参考

○トーン呼出しに戻すことができます。
　操作手順3または4でもう一度「＊」をダイヤルすると、トーン呼出しに戻ります。
　音声呼出しとトーン呼出しは、「＊」で交互に切替えることができます。
○内線ごとに呼出されるときは、必ず音声呼出しにすることもできます。この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。



倉庫内の内線電話では呼出し音「プルプル、プルプル」より音声呼出しの方が、誰にかかってきた電話かがわかり便利です。

（3）グループ内の空き電話を呼出すには（内線代表）

内線の代表番号をダイヤルすると、グループ内の空き電話を呼出します。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 内線の代表番号をダイヤルします。
　○代表がお話中でも、あらかじめ設定された内線へ着信します。
3 相手が応答すると、通話ができます。
4 通話終了後、受話器を戻します。

参考
○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で 内線 キーを押します。

（4）グループ内の内線電話を一斉に呼出すには（グループ音声呼出し）

グループ分けされた内の、1グループのすべての電話機を一斉に音声で呼出せます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 グループ呼出し特番をダイヤルします。（初期値は「＊」、「0」です。）
3 グループ番号をダイヤルします。
4 受話器でグループ名を呼びかけます。
　○たとえば「営業1課さん」と呼ぶと、そのグループのすべての電話機の「スピーカ」から呼びかける音声が流れます。
5 相手が応答すると、通話ができます。
6 通話終了後、受話器を戻します。

参考
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で 内線 キーを押します。
○グループ音声呼出しで呼ばれた場合の応答方法はP. 38をご参照ください。

操作手順2のグループ呼出し特番と3のグループ番号を、まとめて ワンタッチ キーに登録すると操作手順2と3をワンタッチでできます。また、グループ内の電話が一斉に音声呼出しを受けたとき（P. 39）にも ワンタッチ キーが使えます。

（5）すべての内線電話を一斉に呼出すには（一斉呼出し）

グループ分けに関係なく、すべての内線電話を一斉に音声で呼出せます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 グループ呼出し特番をダイヤルします。（初期値は「＊」、「0」です。）
3 「0」をダイヤルします。
4 受話器で呼びかけます。
　○たとえば「どなたか電話に出てください。」と呼びかけると、すべての内線電話の「スピーカ」から呼びかける音声が流れます。
5 相手が応答すると、通話ができます。
6 通話終了後、受話器を戻します。

参考
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で[内線]キーを押します。
○一斉呼出しで呼ばれた場合の応答方法はP. 39をご参照ください。

（6）ＤＧＬグループを呼出すには（ＤＧＬグループ呼出し）

ＤＧＬグループに直接電話をかけることができます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 ＤＧＬ特番をダイヤルします。（初期値は「＊」、「＊」です。）
3 ＤＧＬグループ番号をダイヤルします。
4 相手が応答すると、通話ができます。
5 通話終了後、受話器を戻します。

参考
○拡張内線番号を利用することで、ＤＧＬグループを内線と同じように呼出すことができます。この機能を使うときは、販売店にご相談ください。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で[内線]キーを押します。

操作手順2のＤＧＬ特番と3のＤＧＬグループ番号を、まとめて[ワンタッチ]キーに登録すると操作手順2と3をワンタッチでできます。

（7）話し中の内線電話を予約するには（内線キャンプオンビジー）

予約するには

1 相手が話し中ですから、話中音が聞こえます。
　○受話器から「プープープー」と話中音が聞こえます。
2 予約 キーを押します。
　○ 予約 キーのランプが赤く点灯します。
3 受話器をおろします。

相手のお話しが終ったら

1 予約した内線に呼出しがかかりますので、受話器をあげます。
　○受話器から「プルループルルー」と呼出音が聞こえます。
2 相手が呼出されます。
3 相手が応答すると、通話できます。

（8）内線の呼び先を順次変更するには（シリーズコール）

例えば、呼び先の課の内線番号が「200～209」と10台あり、いつもは「200」にかけているものとします。たまたま「200」がお話し中の場合は、

1 相手が話し中ですから、話中音が聞こえます。
　○受話器から「プープープー」と話中音が聞こえます。
2「1」をダイヤルします。
　○「200」番への呼びは廃棄され、「201」番を呼出します。
　○「1」の代わりに「2」をダイヤルすれば「202」番を呼出します。
3 相手が応答すると、通話できます。

参考 ○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

4．電話の受けかた（外線／内線）

1 外線を受けるには（外線ランプ赤く点滅）

（1）普通に受けるには（任意外線応答）

応答 キーですべての外線着信に応答できます。

1 外線着信音「プルルー」が鳴ります。
　○かかってきた外線の外線ランプは赤く点滅します。

2 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

3 応答 キーまたは、点滅している 外線 キーを押します。
　○通話ができる状態になります。
　○外線ランプは緑の点灯に変わります。
　○応答キーランプは消灯します。

4 通話終了後は、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

参考
○受話器をあげる前に、応答 キーを押しても電話を受けることができます。
○主装置の設定により受話器をあげるだけで、電話を受けることができます。（オフフック外線自動応答）この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

2 内線を受けるには

（1）普通に受けるには（内線自動応答）

自分にかかってきた電話は、受話器をあげるだけで受けることができます。

1 内線着信音「プルプルプル」が鳴ります。

2 受話器をあげます。
　○通話ができる状態になります。

3 通話終了後は、受話器を戻します。

（2）音声呼出しを受けたときには（音声呼出し）

「スピーカ」から音声で呼出しを受けたときは、「普通に受けるには（P. 37）」と同じ操作で電話を受けることができます。

1 「スピーカ」から呼びかけられます。
　○たとえば「田中さん、田中さん」と呼びかけられます。
2 受話器をあげます。
　○通話ができる状態になります。
3 通話終了後は、受話器を戻します。

（3）受話器をあげずに受けるには（内線ハンズフリー応答）

音声呼出しを受けたときは、受話器の代わりに「ハンズフリーマイク」と「スピーカ」で通話ができます。

1 「スピーカ」から呼びかけられます。
　○たとえば「田中さん、田中さん」と呼びかけられます。
2 受話器をあげずに［マイク］キーを押します。
　○マイクランプは赤く点灯します。
　○通話ができる状態になります。
3 「マイク」で応答します。

参考
○通話中に受話器をあげると、通常の受話器による通話になります。受話器による通話から「マイク」による通話には戻れません。
○一斉呼出し、グループ呼出しのときは、「マイク」による通話はできません。

あらかじめ［マイク］キーを押しておくと、音声呼出しにいつでもマイクで応答できます。倉庫などで使う電話機は、あらかじめ音声呼出しにしておくと便利です。工事が必要になりますので、販売店にご相談ください。

（4）グループ内の別の電話を受けるには（代理応答）

グループ内の別の電話に、かかってきた電話を受けることができます。

1 別の内線電話機が、「プルプルプル」と着信音が鳴ります。
2 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
3 （代理応答）キーを押します。
　○通話ができる状態になります。
4 通話終了後は、受話器を戻します。

参考
○（代理応答）キーの代わりに（内線代理応答）キーを押すと、グループ内の内線のみ応答できます。
○（代理応答）キーの代わりに（外線代理応答）キーを押すと、グループ内の外線のみ応答できます。
○受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、本機能を利用する場合、操作手順2の前に［内線］キーを押します。

(5)他グループの電話を受けるには（指定代理応答）

他のグループにかかってきた電話を、受けることができます。

1 他のグループの内線電話機が、「プルプルプル」と着信音が鳴ります。
2 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
3 (指定代理応答) キーを押します。
4 電話がかかってきたグループ番号をダイヤルします。
　○通話ができる状態になります。
5 通話終了後は、受話器を戻します。

参考
○受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、本機能を利用する場合、操作手順2の前に [内線] キーを押します。

（6）グループ内の電話が一斉に音声呼出しを受けたときには（グループ呼出し応答）

グループ内の内線電話が一斉に音声呼出しを受けたときには、グループ内のどの電話機でも応答できます。

1 「スピーカ」から呼びかけられます。
　○たとえば「営業1課のかた電話に出てください。」と呼出しを受けます。
2 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
3 グループ呼出し応答の特番をダイヤルします。（初期値は「#」、「0」です。）
4 グループ番号をダイヤルします。
　○通話ができる状態になります。
5 通話終了後は、受話器を戻します。

参考
○受話器をあげると、自動的に外線を捕捉する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、本機能を利用するときは、操作手順2の前に [内線] キーを押します。

（7）すべての内線電話が一斉に音声呼出しを受けたときには（一斉呼出し応答）

すべての内線電話が一斉に音声呼出しを受けたときには、どの電話機でも応答できます。

1 「スピーカ」から呼びかけられます。
　○たとえば「どなたか電話に出てください。」と呼出しを受けます。
2 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
3 グループ呼出し応答の特番をダイヤルします。（初期値は「#」、「0」です。）
4 「0」をダイヤルします。
　○通話ができる状態になります。
5 通話終了後は、受話器を戻します。

3 ＤＩＬ／ＤＩＤ表示の電話を受けるには

ダイレクトインライン、夜間ダイレクトインライン、ＰＢＸダイヤルイン、付加番号ＤＩＤでかかってきた電話を受けることができます。

1 着信音「プルプルプル、プルプルプル」と鳴ります。
　○ディスプレイの上段に［　　ＤＩＬＸＸＸ］または、ＤＩＤと表示します。
　○かかってきた外線の外線ランプは、橙色の速い点滅をします。

2 受話器をあげます。
　○通話ができる状態になります。

3 通話終了後は、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

参考
○ＮＴＴのナンバーディスプレイサービス契約回線からの着信時は、相手の電話番号が下段に表示されます。
○また、番号に対応した名前を登録することで、番号の代わりに名前の表示ができます。
○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

4 キャッチホンを受けるには

ＮＴＴのキャッチホンサービスを受けることができます。

1 外線と通話中に「プップー、プップー」と鳴ります。

2 使用中の（外線）キーを押します。
　○キャッチホンでかかってきた相手とつながります。

3 もう一度（外線）キーを押すと、元の相手との通話に戻ります。

参考
○（外線）キーのかわりに（フッキング）キーを押すこともできます。
（フッキング）キーの設定はP. 68 を参照してください。
○外線の回線契約を変更した場合などについては、P. 74 を参照してください。

○この機能をご利用になるときは、ＮＴＴとのキャッチホンサービスの契約を行ってください。

5．夜間や留守番のときに便利な機能

1 夜間に便利な機能

（1）指定の外線着信に録音メッセージを送るには（留守応答）

夜間や留守のとき指定の外線に着信があった場合、システム内蔵の留守応答装置につながり録音メッセージを送ることができます。

＜留守応答を設定するには＞

1 昼夜切替 キーを押します。
- ○設定できた場合は、「ピー」と鳴ります。
- ○昼夜切替ランプは赤く点灯します。

＜留守応答を解除するには＞

1 昼夜切替 キーを押します。
- ○解除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
- ○昼夜切替ランプは消灯します。

＜応答メッセージを録音するには＞

応答メッセージの録音はシステム管理電話機で行います。メッセージは16秒間録音できます。

1 システム管理電話機の 保留 キーを押し、「6」をダイヤルします。
2 機能番号「4」をダイヤルします。
- ○録音されていない場合、 ルスオウトウ　ナシ と表示します。
- ○録音されている場合、 ルスオウトウ　アリ と表示します。

3 受話器をあげます。
4 「#」をダイヤルします。
- ○「ピー」と鳴り録音が開始されます。

5 受話器に向かってメッセージを話します。
- ○録音時間の16秒を過ぎると、自動的にメッセージが再生されます。
- ○録音時間の16秒以内に「#」をダイヤルすると、録音を終わりメッセージが再生されます。
- ○録音のし直しは、操作手順4からはじめます。

6 保留 キーを押します。
7 受話器を戻します。

参考
- ○この機能を利用する場合は、販売店にご相談ください。
- ○応答メッセージは、下表の種類を選んで利用できます。上記操作手順2の機能番号を変えれば、番号に応じた応答メッセージを録音できます。

機能番号	機能種別名	表示文字	参照頁
1	転送電話着信側ガイダンス	テンソウチャクシンジ	P. 42
2	転送電話転送先側ガイダンス	テンソウ　テンソウジ	P. 42
3	着信ウェイトガイダンス	チャクシン　ウェイト	P. 44
4	留守応答ガイダンス	ルス　オウトウ	P. 41

- ○応答メッセージを録音する場合および、留守応答機能を利用する場合は、ハードオプションが必要ですので、販売店にご相談ください。

（2）外線着信を指定した外線に自動転送するには（指定外線自動転送）

転送される外線を登録しておくと、その外線の着信は、自動的に登録された相手先に転送できます。転送される外線は電話機に登録されている外線にかぎられます。

＜自動転送にするには＞

1 (指定外線転送) キーを押します。
2 たとえば転送先を登録した、(外線1番) キーを押します。
3 [保留] キーを押します。
　○指定外線転送ランプは赤く点灯します。
4 [スピーカ] キーを押します。

＜自動転送を解除するには＞

1 (指定外線転送) キーを押します。
　○指定外線転送ランプは消灯します。

＜転送される外線に電話番号を登録するには＞

システム管理電話機から登録してください。

1 [保留] キーを押します。
2 (指定外線転送) キーを押します。
3 自動転送する外線を指定します。
　○たとえば (外線1番) キーを押します。
4 転送先の電話番号をダイヤルします。
5 [保留] キーを押します。
　○登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
6 [スピーカ] キーを押します。

参考 ○この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2 留守番のとき便利な機能

（1）すべての着信を1台の電話機で受けるには（集中着信）

集中着信機能を持たせた電話機では、グループ分けに関係なくすべての外線着信を1台の電話機で受けることができます。また、集中着信中は受話器を上げるだけで応答できます。

1 外線着信音「プルルー」が鳴ります。
　○かかってきた外線の外線ランプは赤で点滅します。

2 受話器をあげます。
　○通話ができる状態になります。
　○外線ランプは緑の点灯に変わります。

3 通話終了後は、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

＜集中着信をするには＞

1 (集中着信) キーを押します。
　○登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
　○集中着信ランプは赤く点灯します。

参考

○集中着信登録の電話機は、常に集中着信ランプは赤く点灯しています。

＜集中着信を解除するには＞

1 (集中着信) キーを押します。
　○解除できた場合は、「ピー」と鳴ります。
　○集中着信ランプは消灯します。

（2）通話中に別の外線着信を一時待ってもらうには（着信ウェイトメッセージ）

通話中に別の外線着信があった場合、通話中の電話機でその外線に一時待ってもらう旨のメッセージを送り、その後保留状態にできます。通話終了後に保留にした外線の、電話にでることができます。

1 通話中に外線着信音「ピー」が鳴ります。
　○かかってきた外線の外線ランプは赤で点滅します。

2 着信ウェイト キーを押します。
　○着信ウェイトランプは赤く点灯します。

3 応答 キーまたは、赤く点滅している 外線 キーを押します。
　○かかってきた外線には、たとえば「ＸＸ会社です、しばらくお待ちください」などの録音メッセージを送り保留状態にします。
　○外線ランプは、緑と橙で交互に点滅します。

4 通話終了後、受話器を戻さずに 着信ウェイト キーを押します。
　○保留中の相手と通話できる状態になります。
　○外線ランプは緑の点灯に変わります。
　○着信ウェイトランプは消灯します。

5 通話終了後は、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

参考
○この機能を使用する場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。
○着信メッセージはあらかじめ録音しておく必要があります。
○着信ウェイトランプが赤く点灯している電話機では、次の外線着信には着信ウェイトはできません。

せっかくかかってきた、お客様からの電話をのがさず、ビジネスチャンスが広がります。

（3）外線着信音が鳴らないようにするには（夜間鳴動先指定）

留守番や夜間のとき、外線着信音が鳴らないように電話機を指定できます。着信音は鳴らなくても外線ランプは点滅します。

応答 キー、または点滅の 外線 キーで電話を受けることはできます。

＜鳴らないようにするには＞

1 昼夜切替 キーを押します。
　○昼夜切替ランプは赤く点灯します。

＜解除するには＞

1 昼夜切替 キーを押します。
　○昼夜切替ランプは消灯します。

参考 ○この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

（4）夜間の着信先を一定時間後に別の内線に転送するには（応答遅延転送）

夜間または昼間（昼食時）など、誰もいないときの着信を、別の内線に転送できます。

転送する条件は、一定時間応答がない場合に転送されます。

参考 ○この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

6．保留のしかた

1 通話相手に一時お待ちいただくには（保留）

（1）保留の解除は自分の電話機（自己保留）

保留した電話機以外では保留の解除をできないようにするには、(自己保留) キーを押します。

1 通話中の相手に保留することを伝え、(自己保留) キーを押します。
- ○受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ○保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。
- ○自己保留ランプは橙と緑で交互に点滅します。
- ○外線を保留した場合は、その外線ランプは橙と緑を交互に点滅します。

2 保留の解除は、(自己保留) キーを押します。
- ○通話ができる状態に戻ります。
- ○自己保留ランプは消灯します。
- ○点滅していたランプは、緑の点灯に変わります。

3 通話終了後は、受話器を戻します。
- ○点灯していたランプは消灯します。

参考
- ○保留時間が長すぎると「スピーカ」から警告音が鳴り、外線ランプを速い点滅にして知らせます。
- ○外線通話を保留し受話器を戻した場合は、橙と緑を交互に点滅している (外線) キーを押して保留を解除します。

保留音：曲

- グリーンスリーブス　（Lと同じ）
- 峠の我家
- 2つのメヌエット

（2）保留の解除を別の電話機でもするには（通話保留）

保留解除を別の電話機でもできるようにするには、[保留]キーを押します。

＜保留のしかた＞

1 通話中の相手に保留することを伝え、[保留]キーを押します。
- ○受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ○保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。
- ○外線を保留した場合は、その外線ランプは橙と緑を交互に点滅します。
- ○[保留]キーのランプは点灯しません。

＜別の電話機で保留を解除するには＞

1 受話器をあげます。
- ○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 外線ランプが緑で点滅している、(外線)キーを押します。
- ○通話ができる状態になります。

3 通話終了後は、受話器を戻します。
- ○外線ランプは消灯します。

参考
- ○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげないで(外線)キーを押したあとで、受話器をあげて応答してください。

＜自分の電話機で保留を解除するには＞

1 通話中の相手に保留することを伝え[保留]キーを押します。
- ○受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ○保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。
- ○外線ランプは橙と緑を交互に点滅します。

2 保留の解除は、(外線)キーを押します。
- ○通話ができる状態に戻ります。
- ○点滅していたランプは、緑の点灯に変わります。

3 通話終了後は、受話器を戻します。
- ○点灯していたランプは消灯します。

参考
- ○保留時間が長すぎると「スピーカ」から警告音が鳴り、外線ランプを速い点滅にして知らせます。
- ○別の電話機で保留を解除する場合は、(外線)キーを押した後受話器を戻します。

（3）パーク保留をするには（パーク保留）

(外線)キーが割付けられていない電話機、または内線通話を保留する場合は、パーク保留にします。

＜保留のしかた＞

1 通話中の相手に保留することを伝え(パーク)キーを押します。
- ○受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ○パークランプは橙と緑で交互に点滅します。また、別の電話機のパークランプは緑で点滅します。
- ○保留の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

2 保留の解除は、(パーク)キーを押します。
- ○通話ができる状態に戻ります。
- ○自分のパークランプは消灯します。
- ○別の電話機のパークランプは消灯します。

3 通話終了後は、受話器を戻します。

＜別の電話機で保留を解除するには＞

1 受話器をあげます。
- ○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 緑で点滅している、(パーク)キーを押します。
- ○通話ができる状態になります。
- ○パークランプは消灯します。

3 通話終了後は、受話器を戻します。



パーク保留に応答できる電話機をグループ化し、グループ内保留に応答できるグループパークとシステム全体に応答できるシステムパークにグループ化できます。たとえば、会社の受付はシステムパーク、課内はグループパークにするなどして効果的な運用ができます。


参考

○受話器をあげた場合、自動的に外線に発信する設定になっている場合、受話器をあげないで(パーク)キーを押したあとで、受話器をあげて応答してください。

（4）保留の警告について

保留時間が1分経過すると「スピーカ」から警告音がなり、保留した内線の保留ランプの点滅は速くなります。保留開始から警告音が鳴り出すまでの時間は、あらかじめ1分に設定されています。

7．転送のしかた

1　通話中の外線を内線に転送するには

（1）転送先に呼びかけて転送するには（口頭転送）

外線を保留してから転送先に呼びかけます。

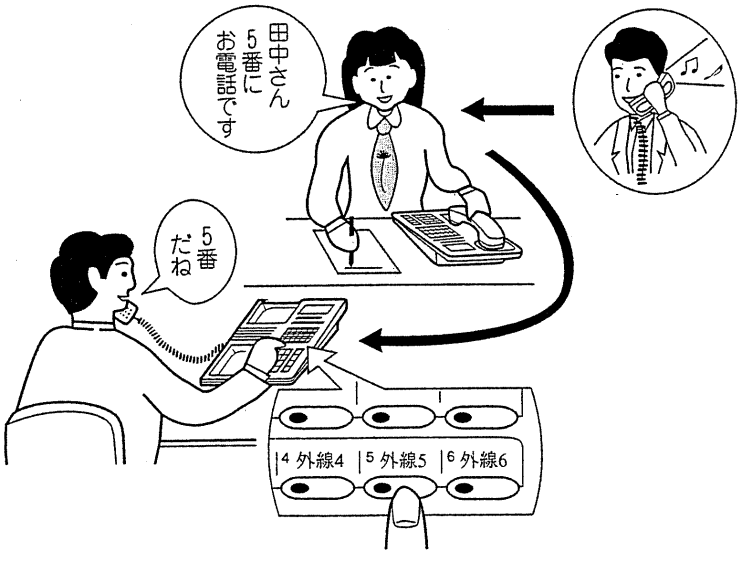
1 通話中の相手に転送を伝え、保留 キーを押します。 ○受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。 ○保留した外線のランプは橙と緑を交互に点滅します。また、別の電話機では保留の外線ランプは緑の速い点滅をします。 ○相手には、保留音（メロディ）を送ります。
2 転送先に呼びかけます。 ○たとえば「田中さん、外線5番に池田さんから電話が入っています」と呼びかけます。
3 受話器を戻します。
4 呼びかけられた人は受話器をあげます。 ○受話器から「ツーツー」の発信音が聞こえます。
5 点滅している 外線 キーを押します。 ○この場合は、呼ばれた田中さんは、外線5番キーを押します。 ○通話ができる状態になります。 ○外線ランプは緑の点灯に変わります。
6 通話終了後は、受話器を戻します。 ○外線ランプは消灯します。

参考

○外線が割付けられていない電話機でも、パーク キーが割付けられていれば 保留 キーにより自動的に パーク キーに保留させることができます。

○転送先が一定時間内に応答しない場合は、保留した電話機に保留警告音が鳴ります。この場合は橙と緑で点滅しているランプの 外線 キーを押すと、保留が解除され相手との通話に戻れます。

○呼びかけられた人の電話機が、受話器をあげると自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげないで 外線 キーを押し、その後受話器をあげてお話しします。



（2）ダイヤルして転送するには（ダイヤル転送）

内線番号をダイヤルして転送します。

1 通話中の相手に転送を伝え、[内線] キーを押します。
- ○受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ○内線ランプは赤く点滅します。
- ○外線ランプは緑の点灯のままです。
- ○相手には、保留音（メロディ）を送ります。

2 転送先の内線番号をダイヤルします。

3 転送先に用件を伝えます。
- ○たとえば「田中さんに池田さんから電話が入っていますのでおつなぎします」と伝えます。

4 受話器を戻すと、転送されます。
- ○転送元の外線ランプは赤く点灯します。
- ○転送先の外線ランプは緑で点灯します。

参考
○相手が内線でも、他の内線に転送できます。

（3）内線ワンタッチキーで転送するには（内線ワンタッチキー転送）

1 通話中の相手に転送を伝え、[内線ワンタッチ] キーを押します。
- ○内線ランプは赤く点滅します。
- ○外線ランプは緑の点灯のままです。
- ○相手には、保留音（メロディ）を送ります。

2 転送先に用件を伝えます。
- ○たとえば「田中さんに池田さんから電話が入っていますのでおつなぎします」と伝えます。

3 受話器を戻すと、転送されます。
- ○転送元の外線ランプは赤く点灯します。
- ○転送先の外線ランプは緑で点灯します。

参考
○ [内線ワンタッチ] キーの代わりに、(DSS/BLF) キーでも同じことができます。

2 便利な転送機能

（1）発信元と転送先を交互に通話するには（チェンジオーバー）

転送者は発信元と（電話をかけてきた人と）、転送先の人と交互に通話することができます。

1 通話中の相手に保留することを伝え [内線] キーを押します。
- ○受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ○内線ランプは赤く点滅します。
- ○外線ランプは緑のままです。
- ○相手には、保留音（メロディ）を送ります。

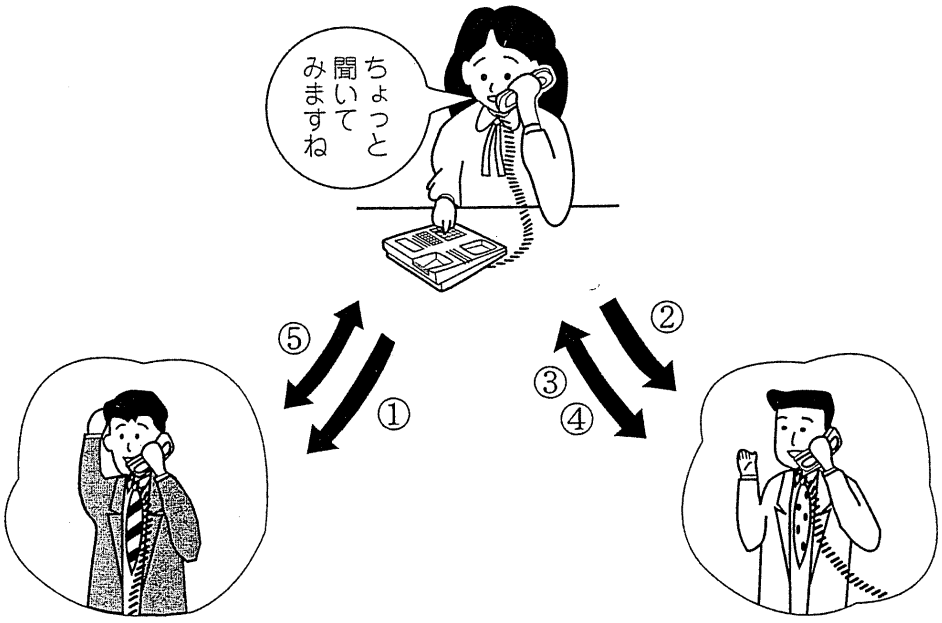
2 転送先の内線番号をダイヤルします。

3 転送先と通話します。

4 転送先に転送することを伝え [内線] キーを押します。
- ○転送先の相手には、保留音（メロディ）を送ります。

5 電話をかけてきた人との通話に戻れます。
- ○ [内線] キーを繰返し押すことで、通話相手を交互に変えることができます。

参考 ○転送者が [秘解除/会議] キーを押すと、発信元と転送先との3者会議通話ができます。



（2）外線発信の依頼を受けたときには（外線発信依頼）

内線と通話中に外線に発信して、つながった外線を内線に転送できます。

1 外線発信の依頼を受けたときは、「受話器を戻さずにお待ちください」と伝え [内線] キーを押します。
- ○受話器は「ツーツー」の発信音に変わります。
- ○発信依頼者には保留音（メロディ）を送ります。

2 外線ランプが消えている、(外線) キーを押します。
- ○外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。

3 依頼された電話番号をダイヤルします。

4 相手に用件を伝えます。
- ○たとえば「田中からの電話です。今おつなぎします。」と伝えます。

5 [内線] キーを押します。
- ○発信依頼者に、たとえば「中村さんとつながりました。」と伝えます。
- ○相手には、保留音（メロディ）を送ります。

6 受話器を戻します。
- ○発信依頼者田中さんと中村さんの電話はつながります。

8．その他の便利な機能

1 受話器をあげずにかけるには（オンフックダイヤル）

受話器をあげずに外線、内線にダイヤルできます。相手が応答したら、受話器をあげて通話できます。

1 ＜外線にかけるには、次の方法を選びます。＞
- ○ (発信) キーを押します。（操作手順 2 へ）
- ○ 外線ランプが消えている、(外線) キーを押します。（操作手順 2 へ）
- ○ (短縮) キーを押します。（操作手順 2 へ）
- ○「0」ダイヤルします。（操作手順 2 へ）
- ○ [リダイヤル] キーを押します。（操作手順 3 へ）
- ○ [外線ワンタッチ] キーを押したときは、相手の応答を待ちます。（操作手順 3 へ）

＜内線にかけるには、次の方法を選びます。＞
- ○ [内線ワンタッチ] キーを押します。（操作手順 3 へ）
- ○ [内線] キーを押します。（操作手順 2 へ）

2 外線または内線の電話番号をダイヤルします。
- ○ (短縮) キーを押した場合は、システム短縮番号をダイヤルします。

3 相手の応答する声が「スピーカ」から聞こえたら、受話器をあげて通話します。

参考
- ○オフフック外線自動捕捉の場合は、1 の操作で [スピーカ] キーでも外線にかけられます。
- ○この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

2 相手の音声をスピーカで聞くには（スピーカ受話）

受話器で通話中に、相手の声を「スピーカ」から聞くように切替えられます。

1 通話中に [スピーカ] キーを押します。
- ○スピーカ受話に切替わります。
- ○こちらの音声は、相手には聞こえなくなります。

2 受話器を戻します。
- ○受話器をあげると、通常の受話器による通話に戻ります。（スピーカ受話解除）

参考
- ○スピーカ受話中は [Vol.] キーでスピーカの音量が調節できます。

3　3人以上で通話するには

電話機は通常1対1の通話で、他人が聞くことができない秘話になっています。この秘話を解除することで3人以上で通話する会議通話、割込み通話ができます。

（1）会議通話をするには（会議通話）

外線または内線と通話中に電話をかけ、もう一人通話に加え会議通話ができます。会議通話は二人まで加えて4者による通話までできます。

1 相手に会議通話をはじめることを伝え、[内線]キーを押します。

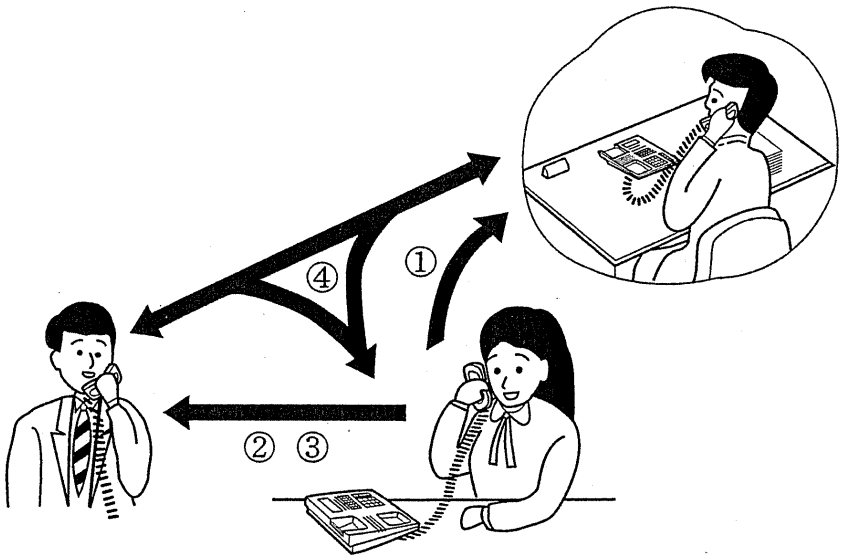
2 外線または、内線にダイヤルします。

3 相手の応答に、会議通話に加わるよう伝えます。
　○たとえば「今○○の件で田中さんと電話しています。山田さんも加わってください。」と伝えます。

4 了解を得てから(秘解除/会議)キーを押します。
　○ディスプレイの下段には、[カイギ゛　ツウワ　　]と表示されます。
　○[秘]解除/会議ランプは赤く点灯します。
　○3者で会議通話ができます。

参考

○あらたに1～4の操作により、4者による会議通話ができます。



（2）通話に3人目を加えるには（秘話解除）

外線との通話中に秘話を解除し、もう一人通話に加えて3者による通話ができます。

1 通話にもう一人加えることを伝え、(秘解除/会議) キーを押します。
　○ディスプレイの下段には、[カイキ゛　ツウワ　　] と表示されます。
　○秘話は解除になります。

2 通話に加わる人に呼びかけます。
　○たとえば、「山川さん外線1番の通話に加わってください。」と呼びかけます。

3 呼びかけられた人は受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

4 (外線1番) キーを押します。
　○3者での通話ができます。

参考
○もう一人通話に加えて、4者による通話ができます。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、呼びかけられた人は (外線) キーを押してから受話器をあげてお話しします。

（3）通話中の外線に割り込むには（外線割込み通話）

通話中の外線に割り込んで、通話に加わることができます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 (割込) キーを押します。
　○割込ランプは赤く点灯します。

3 通話中の (外線) キーを押します。
　○ディスプレイの下段には、[ワリコミ　ツウワ　　] と表示されます。
　○割込みができ、3者通話ができます。

参考
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげる前に [内線] キーを押します。
○3の操作により「ピー」音が聞こえる場合があります。

（4）通話中の内線に割り込むには（内線割込み通話）

通話中の内線に割り込んで、通話に加わることができます。

1 受話器をあげます。
○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 内線番号をダイヤルします。
○話中音「ツーッツーッ」が聞こえます。

3 (割込) キーを押します。
○ディスプレイの下段には、[ワリコミ　ツウワ　　] と表示されます。
○ダイヤルした内線番号の電話機には、割込み音「ピー」を送ります。
○割込みができ、3者通話ができます。

参考
○割込みができる内線は特定の内線だけです。この機能を使う場合は、工事設定が必要です。工事については、販売店にご相談ください。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげる前に [内線] キーを押します。

4 キャッチホンと表示されたときには（内線キャッチホン）

外線または内線と通話中に他の内線から着信があると、ディスプレイに「キャッチホン」と表示されます。通話中の相手を一時保留し、着信の相手と通話できます。外線キャッチホンはP. 40 をご参照ください。

1 通話中に着信を受けた状態
○ディスプレイの上段に [　　キャッチホン] と表示されます。

2 通話中の相手に保留することを伝え [内線] キーを押します。
○かけてきた内線電話とつながります。
○通話中だった相手には、保留音（メロディ）を送ります。
○内線キーランプは赤く点滅します。

3 前の相手に戻るときは、[内線] キーを押します。
○相手が受話器を戻すまでは、[内線] キーで繰返し相手を変えて通話できます。

参考
○この機能を使う場合は、工事設定が必要です。工事については、販売店にご相談ください。

5 席を離れるときには

(1) 不在のメッセージを送るには (不在設定)

不在設定をしておくと内線からの電話には、不在メッセージを相手の電話機に表示させることとができます。

<不在を設定するには>

1 受話器を置いたまま (不在設定) キーを押します。
○不在設定のランプは赤く点灯します。

<不在設定を解除するには>

1 受話器を置いたまま (不在設定) キーを押します。
○不在設定のランプは消灯します。

<メッセージを選ぶには>

1 [保留] キーを押します。
2 (不在設定) キーを押します。
3 不在種別番号をダイヤルします。
○種別番号1 フサ゛イ
○種別番号2 カ゛イシュツ
○種別番号3 カイキ゛
○「応答」キーを押すと、不在メッセージ1～3を繰返し表示します。
4 [保留] キーを押します。
○登録できた場合は、「ピー」と鳴ります。
5 [スピーカ] キーを押します。

参考 ○不在転送と不在設定が同時に設定されている電話機では、不在転送が優先されます。

不在メッセージの内容は、お客様で好みのメッセージに変更することができます。販売店にご相談ください。

（2）離席時に電話を転送するには（不在転送）

離席時に転送先の電話番号を登録すると、その後の着信は登録の電話番号へ自動的に転送されます。

＜離席するとき不在転送（選択転送）をセットするには＞

1 受話器を置いたまま（不在転送）キーを押します。
2 [保留] キーを押します。
　○不在転送ランプは赤く点灯します。

＜席に戻ったとき不在転送（選択転送）を解除するには＞

1 受話器を置いたまま（不在転送）キーを押します。
　○不在転送ランプは消灯します。

参考
○あらかじめ、転送先を登録する必要があります。登録方法は＜不在転送先の登録＞①、②、③をご参照ください。
○この機能を使用する場合は、販売店にご相談ください。

＜不在転送先の登録①＞

どこからかかってきても、同じ転送先に自動的に転送するとき

1 受話器を置いたまま [保留] キーを押します。
2 （不在転送）キーを押します。
3 「0」をダイヤルします。
4 「#」をダイヤルします。
5 番号種別をダイヤルします。
　○公衆回線は「0」をダイヤルします。
　○主装置収容の専用線は「1」をダイヤルします。
　○構内交換機に収容されている内線または、専用線は「2」をダイヤルします。
6 転送先の電話番号をダイヤルします。
7 [保留] キーを押します。
8 [スピーカ] キーを押します。

参考
○上記の操作手順4、5、6の代わりに内線番号をダイヤルすることで、転送先を内線電話機にすることができます。

＜不在転送先の登録②＞

かかってきた電話（内線、外線、専用線）毎に別々の転送先に自動的に転送するとき

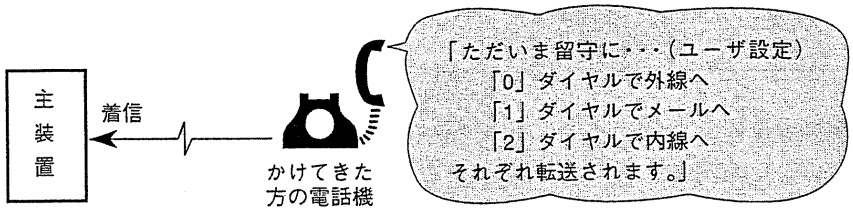
1 受話器を置いたまま[保留]キーを押します。
2 (不在転送)キーを押します。
3 転送する電話によって次の番号をダイヤルします。
　○内線は「1」をダイヤルします。
　○外線は「2」をダイヤルします。
　○専用線は「3」をダイヤルします。
4 「#」をダイヤルします。
5 番号種別をダイヤルします。
　○公衆回線は「0」をダイヤルします。
　○主装置収容の専用線は「1」をダイヤルします。
　○構内交換機に収容されている内線または、専用線は「2」をダイヤルします。
6 転送先の電話番号をダイヤルします。
7 [保留]キーを押します。
8 [スピーカ]キーを押します。

参考
○上記の操作手順4、5、6の代わりに内線番号をダイヤルすることで、転送先を内線電話機にすることができます。

＜不在転送先の登録③＞

かけてきた方が、いったんどこに転送するかをダイヤル指定してから、指定された電話に転送するとき（選択転送）

○かけてきた方が、「0」をダイヤルすると外線、「2」をダイヤルすると内線、「1」をダイヤルするとボイスポスト（ボイスポストをご利用の方のみ）に転送されます。
○登録するときは、外線を指定された場合、内線を指定された場合、ボイスポストのメールボックスを指定された場合（ボイスポストをご利用の方のみ）のそれぞれの転送先の登録と、選択転送モードにする操作があらかじめ必要です。



● かけてきた方が、外線を指定した場合の転送先の登録

1 受話器を置いたまま[保留]キーを押します。
2 (不在転送)キーを押します。
3 「4」をダイヤルします。
4 「#」をダイヤルします。
5 番号種別をダイヤルします。
　○公衆回線は「0」をダイヤルします。
　○主装置収容の専用線は「1」をダイヤルします。
　○構内交換機に収容されている内線または、専用線は「2」をダイヤルします。
6 転送先の電話番号をダイヤルします。
7 [保留]キーを押します。
8 [スピーカ]キーを押します。

● かけてきた方が、内線を指定した場合の転送先の登録

1 受話器を置いたまま[保留]キーを押します。
2 (不在転送)キーを押します。
3 「4」をダイヤルします。
4 転送先の内線番号をダイヤルします。
5 [保留]キーを押します。
6 [スピーカ]キーを押します。

● かけてきた方が、ボイスポストを指定した場合の転送先の登録
※ボイスポストをご利用のお客様のみ

1 受話器を置いたまま[保留]キーを押します。
2 (不在転送)キーを押します。
3 「4」をダイヤルします。
4 「0」をダイヤルします。
5 メールボックス番号（または、(メールボックス)キー）を指定します。
6 [保留]キーを押します。
7 [スピーカ]キーを押します。

● 選択転送モードにするには

1 受話器を置いたまま[保留]キーを押します。
2 (不在転送)キーを押します。
3 「2」をダイヤルします。
　○「2」の代わりに「＊」をダイヤルすると、PS圏外転送の選択転送となります。
4 「＊」をダイヤルします。
5 [保留]キーを押します。
6 [スピーカ]キーを押します。


参考

○選択転送モードにすると、以前の不在転送の内容は、選択転送の内容に切替わります（どちらかのモードでのみ働きます）。
○選択転送機能を使用する場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

6 ＤＳＳキーで電話をかけるには

フレキシブルキーは相手電話機の使用状態がわかる、(ＤＳＳ) キーとして使うことができます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 (ＤＳＳ) キーを押します。(フレキシブルキー)
　○ＤＳＳランプは赤く点灯します。
　○ＤＳＳランプが点灯しているときは、相手電話機は使われています。
3 相手が応答すると、通話ができます。
4 通話終了後、受話器を戻します。

参考
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげる前に [内線] キーを押します。

＜内線電話番号を登録するには＞

登録できる電話番号は、同じシステム内の内線電話番号です。

1 [保留] キーを押し、「９」をダイヤルします。
2 登録するフレキシブルキーを押します。(ＤＳＳキー)
3 登録する内線電話番号をダイヤルします。
4 [保留] キーを押します。
　○登録を続けるときは、操作手順２からはじめます。
5 [スピーカ] キーを押します。

＜電話番号を削除するには＞

1 [保留] キーを押し、「９」をダイヤルします。
2 削除する (ＤＳＳ) キーを押します。(フレキシブルキー)
3 [保留] キーを押します。
　○削除を続けるときは、操作手順２からはじめます。
4 [スピーカ] キーを押します。

7 プッシュホン信号を送るには（ＰＢエンド・ツー・エンド通信）

（ポケットベル呼出し時）

ダイヤル回線でも外線と接続後にプッシュホン信号が送れます。これにより銀行の残高照会などのプッシュホンサービスが受けられます。通話が終わり受話器を戻すと、電話機は元のダイヤル回線に戻ります。

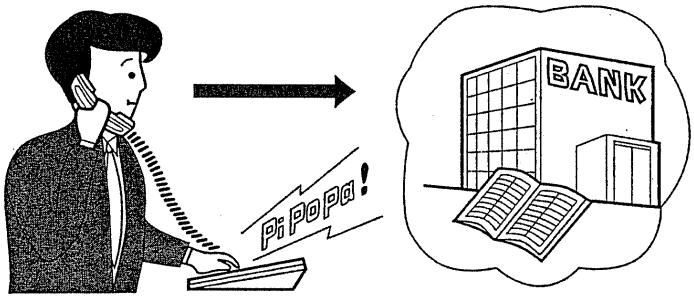
1 外線と通話中 ＰＢ信号 キーを押します。
　○ＰＢ信号ランプは赤く点灯します。

2 次のダイヤルからはプッシュホン信号で送られます。

参考

○ポケットベルでメッセージなどを送る場合、センターとつながってから ＰＢ信号 キーを押します。次にダイヤルキーでメッセージや電話番号を押してください。

内線や専用線にもＰＢ信号を送ることができます。
相手が応答すると自動的にＰＢ信号を送れるようにできます。またオートダイヤル（ワンタッチダイヤル）の中にＰＢ信号を含めて登録することができます。詳しくは、販売店にご相談ください。



銀行の残高照会など

8 ポーズ信号は自動的に挿入されます（オートポーズ）

構内交換機に接続されている電話機では外線に発信する場合、システムで自動的にポーズ信号が挿入されます。わざわざ外線とつながるまでの間を取らなくても電話がかけられます。

9 着信音の音色を選択するには（着信音選択）

電話機ごとに着信音の音色を選択できます。なお、「11外線別着信音を選択するには(外線別着信音選択)」で着信音が選択されている場合は、その着信音で鳴ります。

1 [保留] キーを押し、「3」をダイヤルします。
2 「#」をダイヤルします。
　○ディスプレイの下段には [ヘンコウ→#：チャクシンオン1] と表示します。
　○表示の着信音を5秒間、受話器から聞くことができます。
　○「#」をダイヤルすることで、着信音1～4までを聞くことができます。
3 好みの着信音が鳴ったら [保留] キーを押します。
4 [スピーカ] キーを押します。

10 外線別に着信音を指定するには（外線別鳴動先指定）

外線ごとに外線着信音が鳴る電話機を指定できます。 外線着信音が鳴らない指定の電話機に着信があった場合でも、 外線ランプは点滅しますので、 着信を知ることができます。

参考 ○外線別に着信音を指定する場合は、販売店にご相談ください。

11 外線別着信音を選択するには（外線別着信音選択）

外線ごとに着信音を変えることができます。
また、かけてきた方の電話番号(発信者番号)により着信音を変えることができます。

参考 ○外線別着信音を選択する場合は、販売店にご相談ください。
○発信者番号ごとに着信音を変える場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。また、ＮＴＴナンバーディスプレイサービスの契約が必要です。

12 通話中の外線着信表示について（通話中外線着信表示）

通話中に外線着信またはドアホン着信があると、 通常の外線着信音とは異なる着信音「ピー・・・ピー」が鳴ります。 同時にディスプレイの上段に着信を表示します。

- 外線着信　[ｶﾞｲｾﾝ××]
- ドアホン着信　[ﾄﾞｱﾎﾝ×]
- ナンバーディスプレイ表示　[１２３４５６７８９０]（予算表示がなしの場合全桁表示／予算表示がある場合上8桁表示）
- 発信者番号名称表示（発信者番号名称を登録した場合）　[ホンシャ]（1234567890をホンシャと登録）

参考 ○発信者番号名称の登録方法は、P.92「ＮＴＴナンバーディスプレイ機能の利用」をご参照ください。
○ナンバーディスプレイ表示、発信者番号名称表示にはハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。 また、ＮＴＴナンバーディスプレイサービスの契約が必要です。

13 停電について

（1）停電中に一定時間電話の機能を維持するには

オプションのバッテリーを主装置内に接続すると、停電中でも一定時間は電話をかけたり、受けたりできます。通常の使用状態では全電話機で約15分間、電話の機能を維持することができます。

（2）停電用電話機について

停電用電話機を接続すれば、バッテリーが切れても外線と直通となっている停電用電話機で、通常通り発信や着信ができます。


参考

○停電の対策は、販売店にご相談ください。

14 長電話を知らせるには（長時間通話警告）

外線発信には長電話を防ぐため、一定時間が過ぎると長時間通話警報音を鳴らします。外線に発信してから2分30秒後に1回目の警報音を鳴らし、その後3分ごとに警報音を鳴らします。

15 秘書機能について

幹部と秘書電話機を登録をすることにより秘書機能が使用できます。この秘書機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

（1）幹部電話機を設定するには

工事設定をします。

（2）幹部電話機が話中の場合には（話中転送）

幹部電話機が話中の場合に着信があると、自動的に秘書電話機に転送されます。

（3）幹部電話機が離席設定の場合には（離席転送）

幹部電話機が（在籍／離席）キーが押されている場合は、すべての着信は秘書電話機に転送されます。

＜離席にするには＞

1 幹部電話機で（在籍／離席）キーを押します。
- ○在席／離席キーランプは消灯します。
- ○秘書電話機の幹部ＤＳＳキーランプも消灯します。

＜在席にするには＞

1 幹部電話機で（在籍／離席）キーを押します。
- ○在席／離席キーランプは緑で点灯します。
- ○秘書電話機の幹部ＤＳＳキーランプも緑で点灯します。

（4）幹部電話機が着信拒否をした場合には（着信拒否転送）

幹部電話機が着信鳴動中に（在籍／離席）キーを押した場合は、幹部電話機の鳴動は停止し秘書電話機が着信鳴動になります。

（5）幹部電話機の在席／離席を代行するには（代行操作）

秘書電話機で幹部電話機の在席／離席が設定できます。また、幹部電話機を呼出すことができます。

秘書電話機の（幹部ＤＤＳ）キーで幹部電話機の在席、在席転送、離席を登録できます。幹部ＤＳＳキーランプは在席で緑点灯、不在転送で橙点灯、離席で消灯します。

（6）幹部電話機が応答しない場合には（応答遅延転送）

幹部電話機が着信に対して一定時間応答しない場合は、秘書電話機に転送されます。

16 主装置で設定する機能

主装置で設定する機能の詳しいことは、販売店にご相談ください。

（1）外線発信を規制するには（発信テナント）

電話機ごとに指定された外線と、つながらないように規制できます。

（2）市外発信を規制するには（市外発信規制）

電話機ごとに市外発信を規制できます。 だたし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

（3）指定市外のみに発信させるには（帯域市外発信規制）

指定の市外にのみ発信でき、それ以外の市外発信はできません。 だたし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

（4）海外発信を規制するには（国際発信規制）

電話機ごとに海外発信を規制できます。 だたし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

（5）特定の海外（国）のみに発信させるには（特定国際発信規制）

特定の海外にはかけられる電話機を指定できます。 ただし、システム短縮ダイヤルは規制しません。

（6）内線番号を登録するには（ナンバーグループ）

お客様の運用に応じて1桁から4桁までの内線番号を混在して設定できます。

（7）他のシステムの外線からかけるには（専 — 公接続）

専用線を使い、他のシステムの外線から発信することができます。

（8）専用線に発信するには（専用線接続）

1 受話器をあげます。 ○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 専用線の発信番号をダイヤルします。
3 相手の電話番号をダイヤルします。
4 相手が応答すると、通話ができます。
5 通話終了後、受話器を戻します。


参考

○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定をしている場合、受話器をあげる前に 内線 キーを押します。
○専用線の発信番号の代わりに 専用線 キーで発信できます。

（9）公衆回線と公衆回線を接続するには（公 — 公接続）

外線（アナログ、ＩＳＤＮ）を外線（アナログ、ＩＳＤＮ）に接続することができます。

（10）公衆回線と専用線を接続するには（公 — 専接続）

外線（アナログ、ＩＳＤＮ）を専用線に接続することができます。

（11）専用線と公衆回線を接続するには（専 — 公接続）

専用線を外線（アナログ、ＩＳＤＮ）に接続することができます。

（12）専用線閉番号（専用線閉番号接続）

専用線で複数のシステムを接続した場合、直接内線番号をダイヤルするだけで他システムの内線に接続することができます。

（13）発信者番号別に着信を分けるには（発信者番号別着信）

ＮＴＴのナンバーディスプレイサービス契約回線より受信した発信者番号別に着信先、着信方法、着信時の着信音（音色）を指定できます。

9.電話機を便利に使うには

1 フレキシブルキーに機能を割付けるには

電話機ごとにフレキシブルキーに41種類の機能が割付けられます。割付けられた機能は本文中では、(　　)で表示します。

1 [保留]キーを押し、「0」をダイヤルします。

2 機能を割付ける(フレキシブル)キーを押します。

3 「#」をダイヤルします。

4 機能番号を下の表から選んでダイヤルします。
- ○[応答]キーで機能順に表示します。
- ○たとえば代理応答であれば、ファンクション番号05をダイヤルします。
  ディスプレイには [05　ダイリオウトウ:] と表示されます。

5 [保留]キーを押します。
- ○続けて割付けるには、操作手順2に戻ります。

6 [スピーカ]キーを押します。

参考
○[応答]キーで機能順に表示していて、行きすぎてしまった場合、4の操作でディスプレイに表示された番号のいくつか前の番号をダイヤルして前の表示に戻ることができます。

＜機能一覧＞

No.	機　能	ディスプレイ表示	No.	機　能	ディスプレイ表示
01	リダイヤル	リダイヤル:	23	アラーム	アラーム:
02	オートリピート	オートリピート:	24	ＦＡＸ1	ＦＡＸ1:
03	ダイヤルメモリ	ダイヤルメモリ:	25	ＦＡＸ2	ＦＡＸ2:
04	短縮ダイヤル	タンシュク:	26	在席／離席	ザイセキリセキ:
05	代理応答	ダイリオウトウ:	27	通話録音	ツウワロクオン:
06	[秘]解除／会議	ヒワカイジョ／カイギ:	28	メール登録	メールトウロク:
07	夜間切替ｎｎ	ヤカンキリカエｎｎ:	29	録音終了	ロクオンシュウリョウ:
08	集中着信	シュウチュウチャクシン:	30	一時停止	イチジテイシ:
09	指定外線転送	シテイガイセンテンソウ:	31	ランプ更新	ランプコウシン:
10	自己保留	ジコホリュウ:	32	外線発信	ガイセンハッシン:
11	不在設定	フザイセッテイ:	33	キャリア選択	キャリアセンタク:
12	ＰＢ信号	ＰＢシンゴウ:	34	メッセージ通知	メッセージツウチ:
13	予約	ヨヤク:	35	内線ＭＢＸ指定	ナイセンＭＢＸ:
15	不在転送	フザイテンソウ:	36	内線料金	ナイセンリョウキン:
16	ＬＣＲ停止	ＬＣＲテイシ:	37	非通知	ヒツウチ:
17	クラス切替ｎｎ	クラスキリカエｎｎ:	38	外線代理応答	ガイセンダイリオウトウ:
18	指定代理応答	シテイ　ダイリオウトウ:	39	内線代理応答	ナイセンダイリオウトウ:
19	着信ウェイト	チャクシンウェイト:	40	キーパッド	キーパッド:
20	割込み	ワリコミ:	41	着信履歴	チャクシンリレキ:
21	フッキング	フッキング:	65	メールボックス	メールボックス:
22	料金	リョウキン:			

参考
○すでに外線、パーク、ドアホン、発信、応答として割付けられている、フレキシブルキーには割付けられません。

2 フレキシブルキーにシステム短縮ダイヤルを登録するには

システム短縮ダイヤルにあらかじめ電話番号を登録しておき、そのシステム短縮番号をフレキシブルキーに登録します。 これにより、登録されたフレキシブルキーは[ワンタッチ]キーと同じように使えます。

＜登録するには＞

1 [保留]キーを押し、「0」をダイヤルします。
2 システム短縮ダイヤルを登録する(フレキシブル)キーを押します。
3 「0」をダイヤルします。
4 登録するシステム短縮番号を3桁ダイヤルします。 ○P. 23の方法で登録済みのシステム短縮番号（000～999の中の500ケ所）をダイヤルします。
5 [保留]キーを押します。
6 [スピーカ]キーを押します。


参考

○<システム短縮ダイヤルを登録するには（P. 23）>をご参照ください。
○この機能をお使いいただく電話機全てに登録が必要です。
○電話機をグループ分けし、システム短縮番号を2桁にすることができます。詳しくは、販売店にご相談ください。

＜登録を削除するには＞

1 [保留]キーを押し、「0」をダイヤルします。
2 登録を削除する(フレキシブル)キーを押します。
3 [保留]キーを押します。
4 [スピーカ]キーを押します。

3 フレキシブルキーに外線番号を登録するには

フレキシブルキーにオートダイヤルキーと同様に、外線番号を割付けて、ワンタッチ発信することができます。

＜登録するには＞

1 [保留] キーを押し、「0」をダイヤルします。
2 外線番号を登録する (フレキシブル) キーを押します。
3 「＊」をダイヤルします。
4 番号種別をダイヤルします。 ○公衆回線は、「0」をダイヤルします。 ○内線および専用線は、「1」をダイヤルします。 ○構内交換機に収容されている内線および、専用線は「2」をダイヤルします。
5 登録する電話番号をダイヤルします。
6 [保留] キーを押します。
7 [スピーカ] キーを押します。

＜登録を削除するには＞

1 [保留] キーを押し、「0」をダイヤルします。
2 登録を削除する (フレキシブル) キーを押します。
3 [保留] キーを押します。
4 [スピーカ] キーを押します。

4 フレキシブルキーにＤＳＳ機能を割付けるには

フレキシブルキーに内線番号を登録して、ＤＳＳ端末として利用できます。
電話をかけるとき、ＤＳＳランプが赤く点灯しているときは、相手側で電話機が使われています。電話がかかってきたときは、かけてきた人の電話番号が登録されているＤＳＳランプが点滅します。
これにより、かけるときは相手の状態が、受けるときはかけてきた相手を知ることができます。

＜電話番号を登録するには＞

1 [保留] キーを押し、「9」をダイヤルします。
2 ＤＳＳ機能を割付ける (フレキシブル) キーを押します。
3 内線電話番号をダイヤルします。
4 [保留] キーを押します。 ○続けて割付けるには、操作手順2に戻ります。
5 [スピーカ] キーを押します。

＜電話番号を削除するには＞

1 [保留] キーを押し、「9」をダイヤルします。
2 ＤＳＳ機能を削除する (フレキシブル) キーを押します。
3 [保留] キーを押します。 ○続けて削除するには、操作手順2に戻ります。
4 [スピーカ] キーを押します。

5 音量を調節するには

（1）受話音量を調節するには

通話中に受話器の音量を3段階に調節できます。

1 通話中に [Vol.] キーを押します。

○ディスプレイの下段に現在の音量を表示します。

HANDSET □□□□_ _ _ _

○ [Vol.] キーの△側を押すと□表示が増え、音量は大きくなります。

HANDSET □□□□□□□□

○▽側を押すと□表示が減り、音量は小さくなります。

参考 ○待機中の場合は、[Vol.] キーを押しながら「2」をダイヤルしても同様に調整できます。

（2）スピーカの音量を調節するには

スピーカ受話中にスピーカの音量を8段階に調節できます。

1 通話中に [Vol.] キーを押します。

○ディスプレイの下段に現在の音量を表示します。

SP VOL □□□□_ _ _ _

○ [Vol.] キーの△側を押すと□表示が増え、音量は大きくなります。

SP VOL □□□□□□□_

○▽側を押すと□表示が減り、音量は小さくなります。

（3）着信の音量を調節するには

着信音の音量は3段階に調節できます。電話機が使われていないときに調節します。

1 [Vol.] キーを押しながら、「1」をダイヤルします。

○ディスプレイの下段に現在の音量を表示します。

RING □□□□_ _ _ _

○ [Vol.] キーの△側を押すと□表示が増え、音量は大きくなります。

RING □□□□□□□□

○▽側を押すと□表示が減り、音量は小さくなります。

6 ディスプレイの濃淡を調節するには

濃淡は8段階に調節できます。

1 [Vol.] キーを押しながら、「3」をダイヤルします。

○ディスプレイの下段に現在の濃淡を表示します。

DISPLAY □□□□_ _ _ _

○ [Vol.] キーの△側を押すと□表示が増え、濃くなります。

DISPLAY □□□□□□□_

○▽側を押すと□表示が減り、淡くなります。

7 電話機のアラーム機能を使うには（時刻アラーム）

内線電話機ごとに、あらかじめ設定した時刻にアラームを鳴らすことができます。
ディスプレイ付き電話機で使用できます。

＜設定のしかた＞

1 受話器をあげます。
2 (アラーム)キーを押します。
3 鳴らしたい時刻をダイヤルします。
　○時刻の設定は、24時間制です。
　○例えば、午後1時に鳴らしたいときは「1」、「3」、「0」、「0」とダイヤルします。
4 [保留]キーを押します。
5 受話器を戻します。


参考

○アラームを設定するとアラームランプは赤く点灯します。
○アラームが鳴り、10秒以上過ぎても解除されない場合は、翌日の同一時刻に再度鳴ります。

＜解除のしかた＞

1 受話器をあげます。
2 (アラーム)キーを押します。
3 受話器を戻します。

8 キータッチトーンを調節するには

キータッチトーンの有り／無しを選べます。

＜調節のしかた＞

1 [Vol.]キーの△側と▽側の両方を押しながら「3」をダイヤルします。
2 次のどちらかの操作をします。
　○ [Vol.] キーの△側を押すと、キータッチトーンがON（有り）になります。
　○ [Vol.] キーの▽側を押すと、キータッチトーンがOFF（無し）になります。

9 ディスプレイの年月日・時刻を調節するには

システム管理電話機で調節します。

＜年月日を調節するには＞

1 受話器を置いたまま [保留] キーを押し、「1」をダイヤルします。
2 年（下2桁00～99）、月（2桁01～12）、日（2桁01～31）の順にダイヤルします。
3 曜日（2桁00～06）をダイヤルします。
○2桁は00：日、01：月、02：火、03：水、04：木、05：金、06：土です。
4 [保留] キーを押します

＜時刻を調節するには＞

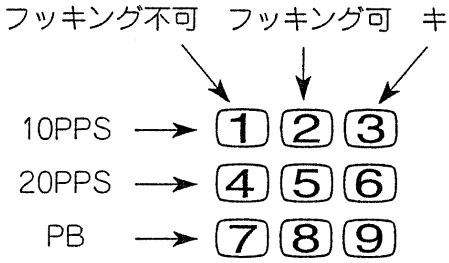
1 受話器を置いたまま [保留] キーを押し、「2」をダイヤルします。
2 時（2桁00～23）、分（2桁00～59）の順に ダイヤルします。
3 [保留] キーを押します。

10 回線（外線）の信号種別を変更したいとき

電話機の操作によって、外線の信号をパルスまたは、トーンに変更することができます。

また、外線に対してキャッチホン時に送るフッキング信号の許可または、不許可を指定することができます。

1 システム管理電話機の [保留] キーを押し、「#」をダイヤルします。
2 信号種別を変更したい (外線) キーを押したあと、[応答] キーを押します。
3 ダイヤルを押します。押したダイヤルにより、次のように設定が変更されます。



（例）[9] を押すと、ＰＢでキャッチホン可となります。

4 [保留] キーを押します。
5 [スピーカ] キーを押します。

参考
○外線の回線契約を変更した場合などに操作してください。
○外線の着信方式がＤＧＬ着信、ＭＳＡ着信の場合、上記の方法では信号種別を変更できません。
変更できない場合は、工事設定が必要ですので販売店にご相談ください。

10. 通話料金の管理について

1 度数・通話時間・料金の表示について

（1）度数表示

外線発信のとき度数（通話単位時間とその料金）表示は、相手応答後10秒間表示します。

○ディスプレイの上段には残り予算と電話番号を、下段には通話単位時間とその料金を表示します。

```
１００００００円Ｔｅｌ．２３
　１８０ｓｅｃ　→　　１０円
```

（2）通話時間と料金表示

度数表示の10秒後に料金表示をはじめ、通話時間と通話料金を刻々表示します。

○ディスプレイの上段には残り予算と電話番号を、下段には通話料金と通話時間を分･秒単位で表示します。

```
１００００００円Ｔｅｌ．２３
　　１０円　　００’１９”
```

参考

○通話料金は表示しなくすることもできます。販売店にご相談ください。

○表示される通話料金はあくまでも目安です。NTTなどからの請求金額とは一致しない場合がありますのでご了承ください。

2 通話料金を集計表示するには

外線、内線、予算管理グループごとに通話料金の実績と予算額、予算残高を集計表示できます。(表示された金額には、消費税が含まれています。)

1 (料金) キーを押します。

2 集計単位をダイヤルするか、[応答] キーで集計単位を順に表示させます。

○集計単位

2：内線　3：外線　4：専用線方路　5：予算管理グループ
6：ID　7：システム　8：キャリア

3「＊」をダイヤルします。

4 指定番号をダイヤルします。

○指定番号は内線なら内線番号、外線なら外線番号をダイヤルします。

5 種別番号をダイヤルするか、[応答] キーで料金種別を順に表示させます。

○種別番号をダイヤルすると、指定の料金を集計表示します。

	ナイセン：14
ｺﾝｹﾞﾂ	148000円

○種別番号

1：今日　2：先月　3：今月　4：残高
5：予算

6「＊」をダイヤルします。

○次の指定番号を表示します。この場合は、内線205を集計表示します。

○「＊」ダイヤルで順次集計表示をします。

7 [スピーカ] キーを押します。

3 通話料金の予算表示について

予算グループごとに電話料金の予算管理ができます。予算が無くなった場合は、外線発信を規制したり、発信時に警告音を鳴らすことができます。

（1）予算と実績を表示するには

1 (料金) キーを押します。

2 予算管理グループ、内線番号をダイヤルします。

3「＊」をダイヤルします。

4 指定番号をダイヤルします。
○指定番号は内線なら内線番号、外線なら外線番号をダイヤルします。

5 種別番号、たとえば今月をダイヤルします。
○今月の現在までの実績を表示します。

```
ヨサンｸﾞﾙｰﾌﾟ：００
ｺﾝｹﾞﾂ　１４８０００円
```

○種別番号
1：今日　2：先月　3：今月　4：残高
5：予算

6「＊」をダイヤルすると、次のグループを表示します。

7 [スピーカ] キーを押します。

（2）予算を設定するには

予算の設定と追加予算は、システム管理電話機で行います。

1 (料金) キーを押します。

2 予算管理グループ、内線番号をダイヤルします。

3「＊」をダイヤルします。

4 指定番号をダイヤルします。

○指定番号は内線なら内線番号、外線なら外線番号をダイヤルします。

5 種別番号、たとえば今月をダイヤルします。

○今月の現在までの実績を表示します。

```
ﾖｻﾝｸﾞﾙｰﾌﾟ ：００
ｺﾝｹﾞﾂ　１４８０００円
```

○種別番号

1：今日　　2：先月　　3：今月　　4：残高

5：予算

6「＃」をダイヤルします。

```
ﾖｻﾝｸﾞﾙｰﾌﾟ ：００
ｼﾝｷ／ﾂｲｶ１／２：
```

7 予算種別グループをダイヤルします。

○予算種別

1：新規予算　　2：追加予算

8 予算額をダイヤルします。

9 [保留] キーを押します。

○予算額を表示します。

```
ﾖｻﾝｸﾞﾙｰﾌﾟ ：００
ﾖｻﾝ　　２００００００円
```

10 [スピーカ] キーを押します。

11. 周辺機器との接続について

1 ファクシミリとの接続

ファクシミリとの接続は、販売店にご相談ください。

（1）外線側への接続

ファクシミリの電話番号にかけてきた外線着信には、自動的にファクシミリとつながります。ファクシミリ通信中の外線ランプは赤く点灯します。

（2）内線側への接続

単独電話機と同じように内線にファクシミリを接続し、ファクシミリの電話番号の外線をファクシミリにＤＩＬ着信するよう設定します。

（3）ＦＮＩによる接続

ファクシミリ通信の外線着信は、自動的にファクシミリとつながります。ファクシミリ通信以外の外線着信は電話機に着信します。

ファクシミリの外線をＦＮＩにＤＩＬ指定し、ファクシミリのＣＮＧ信号を検出し、ファクシミリ通信ならＦＮＩへ、それ以外なら一般の着信となります。

（4）ファクシミリ状況表示

ＦＡＸキーランプでファクシミリに受信原稿があることを知ることができます。ファクシミリ受信中は、ランプが赤く点灯します。通信が終了すると、ランプは緑の点滅に変わります。 受信した原稿を取り、(FAX) キーを押してランプを消します。

2 構内放送装置との接続

（1）構内放送をするには（放送結合）

外部の放送設備を利用して、電話機から構内放送ができます。構内放送との接続は販売店にご相談ください。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 構内放送特番をダイヤルします。（初期値は「＊」、「9」です。）
3 放送装置番号の「0」をダイヤルします。
4 受話器で呼びかけます。
　○たとえば「池田さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた音声が流れます。
5 放送を終わるときは、受話器を戻します。

参考
○この機能を使う場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で[内線]キーを押します。

放送特番と装置番号を[ワンタッチ]キーに登録できます。応答も同様に登録できます。
（内線番号を登録する手順と同じです。）



（2）構内放送で呼出しを受けたときには（放送結合呼出し応答）

構内放送の呼出しを電話機で受けられます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 構内放送特番をダイヤルします。（初期値は「＃」、「9」です。）
3 呼びかけている放送装置番号の「0」をダイヤルします。
　○構内放送した人とつながり、通話できます。
4 通話終了後、受話器を戻します。

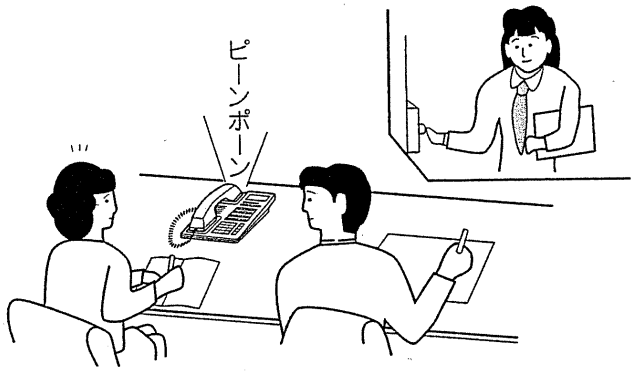
参考
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で[内線]キーを押します。

3 ドアホンとの接続

（1）ドアホンの呼出しに応答するには（ドアホン着信応答）

ドアホンの呼出しを電話機で受けられます。ドアホンとの接続は販売店にご相談ください。

1 ドアホンの着信音「ピーンポーン」と鳴ります。
2 受話器をあげます。
3 ランプが点灯している（ドアホン）キーを押します。
　○通話ができる状態になります。
4 通話終了後、受話器を戻します。



（2）ドアホンに出ず音声を聞くには（ドアホンモニタ）

ドアホンを外部モニタ装置として使用することができます。

1 （ドアホン）キーを押します。
　○外部の音声が「スピーカ」から聞こえます。

（3）ドアホンで呼出すには（ドアホン呼出し）

ドアホンで扉の外の人に声をかけることができます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。
2 （ドアホン）キーを押します。
3 相手に呼びかけます。
　○扉の外の人とドアホンで通話できます。
4 通話終了後、受話器を戻します。

参考
○ドアホンは4台まで接続できます。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順1の前で［内線］キーを押します。
○この機能を使う場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

4 プリンタとの接続

（1）課金情報の出力

全電話機または、全グループごとに通話料金を印字することができます。プリンタとの接続については、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

1 [料金] キーを押します。

2 集計単位をダイヤルするか、[応答] キーで集計単位を順に表示させます。

○集計単位

1：再印字	2：内線	3：外線
4：専用線方路	5：予算管理グループ	6：ＩＤ
7：システム	8：キャリア	

3 [保留] キーを押します。

4 印字種別をダイヤルするか、[応答] キーで印字種別を順に表示させます。

○印字種別

1：今日	2：先月	3：今月

5 [保留] キーを押します。

○印字をはじめます。

6 [スピーカ] キーを押します。

```
*** ズイジ サクヒョウ (コンゲツ) ***                    98/09/10 10:30

* ナイセン *
        ナイセン      グループ    コクナイ      ゼイキン   コクサイ        ゴウケイ

208                     00     ¥100          ¥5      ¥0          ¥105

* ガイセン *
        ガイセン                コクナイ      ゼイキン   コクサイ        ゴウケイ

          01                    ¥100          ¥5      ¥0          ¥105

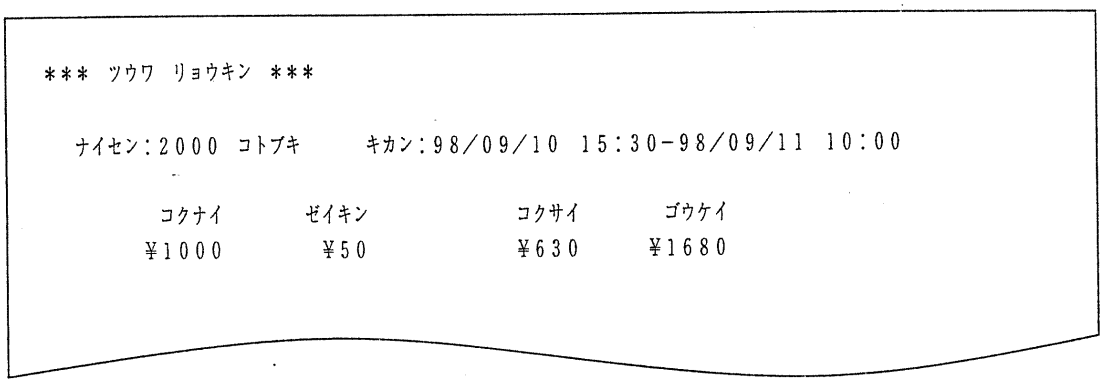
* ホウロ *
        ホウロ                  コクナイ      ゼイキン   コクサイ        ゴウケイ
```

（2）内線毎料金の出力

内線毎の料金を集計し、出力することができます。
一度出力した内線の料金はクリアされます。

1 (内線料金) キーを押します。
2 内線番号をダイヤルするか、(DSS) キーを押します。
3 [保留] キーを押します。
4 [スピーカ] キーを押します。

参考
○一時的に出力する場合（クリアしない）は、操作手順3の前に「3」をダイヤルします。
○プリンタのジャム、紙切れなどで、再出力する場合は、操作手順3の前に「#」をダイヤルします。



5 ヘッドセットとの接続

ヘッドセットを接続すると、受話器をあげずに応答することができます。ヘッドセットとの接続は、販売店にご相談ください。

（1）電話のかけかた

1 [スピーカ] キーを押します。
　○スピーカランプは赤く点灯します。
2 あとは、通常の電話のかけかたと同じです。

（2）電話の受けたかた

1 着信音が鳴ったら、[応答] キーか (外線) キーを押します。
　○通話ができる状態になります。
　○スピーカランプは赤く点灯します。
2 通話終了後は、[スピーカ] キーを押します。

6 外部保留音との接続

保留中に相手に送る保留音を市販の外部装置を接続して使うことができます。外部装置との接続については、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

7 単独電話機との接続

市販の留守番電話機、コードレス電話機、ファクシミリを接続できます。単独電話機との接続については、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

8 録音装置との接続

市販の録音装置を電話機に接続し、通話を録音することができます。録音の開始と停止は録音装置で行います。録音装置との接続については、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

9 高音量ベルとの接続

騒音の大きい場所には高音量ベルを接続して、着信音や音声呼出しを高音量ベルのスピーカから聞くことができます。高音量ベルとの接続は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

10 ボイスポスト（音声メール装置）との接続

通話中の内容をメールボックスに残しておけるボイスポストが接続できます。ボイスポストとの接続は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。
詳しい説明はボイスポスト使用説明書を参照してください。

12. ＩＳＤＮ回線の利用

1 ＩＳＤＮ回線への発信

（1）普通にかけるには

一般の電話回線とほぼ同じ操作ですが、相手電話番号の次に「＃」をダイヤルします。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 たとえば外線ランプが消えている、ＩＳＤＮ回線の（外線1番）キーを押します。
　○外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
　○外線１番のランプは緑で点灯し、他の電話機の外線１番のランプは赤で点灯します。

3 相手の電話番号をダイヤルします。

4 「＃」をダイヤルします。

5 相手が応答すると、通話ができます。

6 通話終了後、受話器を戻します。
　○ディスプレイの下段に通話料金と通話時間を表示します。
　　１３０円　３’３０”
　○すべての外線１番のランプは消灯します。


参考

○操作手順３でオートダイヤル、システム短縮ダイヤルでかけることもできますが、それぞれの電話番号の後に、「＃」を登録しておきます。
○リダイヤル、クイックリダイヤル、オートリピートにも使えます。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定で、ISDN 回線を指定して発信する場合、操作手順１と２の順序を逆に操作します。

（２）直接内線電話機にかけるには（着サブアドレス付加発信）

電話番号の後に、着サブアドレスを付加して発信（内線電話番号に相当）することができます。

1 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 たとえば外線ランプが消えている、ＩＳＤＮ回線の（外線1番）キーを押します。
　○外線とつながると発信音は「ツー」に変わります。
　○外線１番のランプは緑で点灯し、他の電話機の外線１番のランプは赤で点灯します。

3 相手の電話番号をダイヤルします。

4 「＊」、着サブアドレスの順にダイヤルします。

5 「＃」をダイヤルします。

6 相手が応答すると、通話ができます。

7 通話終了後、受話器を戻します。
　○ディスプレイの下段に通話料金と通話時間を表示します。

１３０円　３’３０”

　○すべての外線１番のランプは消灯します。

参考
○操作手順３でオートダイヤル、システム短縮ダイヤルでかけることもできますが、それぞれの電話番号の後に、「＊」、着サブアドレス、「＃」を登録しておきます。
○リダイヤル、クイックリダイヤル、オートリピートにも使えます。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定で、ISDN 回線を指定して発信する場合、操作手順１と２の順序を逆に操作します。

2 ＩＳＤＮ回線からの着信

（1）普通に受けるには（任意外線応答）

通常の電話回線と同じ操作で電話を受けることができます。ディスプレイに相手の電話番号が表示されます。 応答 キーですべての外線に応答できます。

1 外線着信音「プルルー」が鳴ります。
　○かかってきた外線の外線ランプは赤で点滅します。

2 受話器をあげます。
　○受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

3 応答 キーまたは、点滅している 外線 キーを押します。
　○通話ができる状態になります。
　○外線ランプは緑の点灯に変わります。

4 通話終了後は、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

参考
○この機能を使う場合は、データ設定が必要です。販売店にご相談ください。
○受話器をあげると、自動的に外線に発信する設定の場合は、操作手順２と３の順序を逆に操作します。

（2）サブアドレス表示の受けかた（着サブアドレスＤＩＤ）

着サブアドレス付加発信などで電話をかけてきた場合は、受話器をあげるだけで電話を受けることができます。

1 外線着信音「プルルー」が鳴ります。
　○ディスプレイの上段にかけてきた人の電話番号が表示されます。
　　１２３－４５６－７８９０
　○かかってきた外線の外線ランプは橙で点滅します。

2 受話器をあげます。
　○通話ができる状態になります。
　○外線ランプは緑の点灯に変わります。

3 通話終了後は、受話器を戻します。
　○外線ランプは消灯します。

参考
○この機能を使う場合は、データ設定が必要です。販売店にご相談ください。

13. デジタルコードレスシステム

1 子機からの発信方法

（1）内線に発信する場合

1 [通話] キーを押します。
　○接続中音に続いて「ツーツー」という発信音が出ます。

2 相手番号をダイヤルします。
　○呼出音が聞こえます。

3 相手が応答すると通話できます。

4 通話が終了後は、[切] キーを押します。

（2）外線に発信する場合

1 [通話] キーを押します。
　○接続中音に続いて「ツーツー」という発信音が出ます。

2 外線発信特番をダイヤルします。（例えば「0」）
　○「ツー」という発信音に変わります。

3 相手番号をダイヤルします。
　○ダイヤル送出後、呼出音が聞こえます。

4 相手が応答すると通話できます。

5 通話が終了後は、[切] キーを押します。

参考
○内線に発信する操作を応用して、相手番号の代わりに代理応答特番をダイヤルすることで、代理応答などの特番サービスが使用できます。
○外線に発信する操作手順2で、専用線発信特番をダイヤルすることにより、専用線などへの発信ができます。
○通話中にダイヤルすることによりＰＢ信号の送出ができます。

2 子機で着信に応答するには

1 子機に着信音が鳴動します。
　○着信音「ピリピリピリ・・・」が聞こえます。

2 [通話] キーを押します。
　○通話ができる状態になります。

3 通話終了後は、[切] キーを押します。

3 通話を転送するには

1 通話中の相手に転送することを伝え [保留] キーを押します。
　○受話器は「プププ」という発信音に変わります。
　○通話相手には、保留音（メロディ）を送ります。

2 転送先の内線番号をダイヤルします。
　○相手を呼出す音が聞こえます。

3 相手が出たら転送することを伝え [切] キーを押します。


参考

○操作手順3で [保留] キーを押すことにより、交互通話（チェンジオーバー）ができます。

4 外線通話中にフッキング信号を送出するには

1 外線と通話中に [キャッチ]（機能）キーを押します。

5 アダプタシステムでの条件

アダプタシステムでは、子機と回線が1対1でくくられた指定になっています。このようなシステムでは内線に発信することはできません。

32Kデータ通信（PIAFS）時は、アダプタシステムでも子機と回線は1対1とはなりません。従って、パソコンなどのダイヤルアップ接続の番号には、対応する回線をつかむ特番の設定が必要になります。

○発信時は外線発信特番をダイヤルしてはいけません。

○通話時は［保留］キー、［キャッチ］キーともにフッキング信号の送出になります。

6 圏外時に別の内線／外線に転送するには

子機が圏外時に指定された内線または、外線などに転送することができます。

＜転送先を登録するには＞

1 ［通話］キーを押します。
2 不在転送登録特番をダイヤルします。
3「＊」をダイヤルします。
4 ①内線に転送する場合は、そのまま内線番号をダイヤルします。 ②外線／専用線に転送する場合は、「＃」をダイヤル後、番号種別をダイヤルします。 ○外線は、「0」をダイヤルします。 ○主装置に収容された専用線は、「1」をダイヤルします。 ○構内交換機に収容されている内線および、専用線は「2」をダイヤルします。 続いて、登録する電話番号をダイヤルします。 ③ボイスポストに録音する場合は、「0」をダイヤル後、メールボックス番号をダイヤルします。（ボイスポストをご利用のお客様のみ） ④ＰＳ圏外転送の選択転送モードにする場合は、「＊」をダイヤルします。
5 ［通話］キーを押します。

＜圏外転送モードを登録／解除するには＞

1 ［通話］キーを押します。
2 ＰＳ圏外転送モード登録特番をダイヤルします。 ○登録時は「ピー」と音が鳴ります。 ○解除時は「ププププ」と音が鳴ります。

参考 ○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

7 選択転送先を登録するには

子機が圏外時に外線からの操作により接続先を指示できます。

＜選択転送先を登録するには＞

1 通話 キーを押します。
2 不在転送登録特番をダイヤルします。
3 「4」をダイヤルします。
4 ①内線に転送する場合は、そのまま内線番号をダイヤルします。 ②外線／専用線に転送する場合は、「＃」をダイヤル後、番号種別をダイヤルします。 ○外線は、「0」をダイヤルします。 ○主装置に収容された専用線は、「1」をダイヤルします。 ○構内交換機に収容されている内線および、専用線は「2」をダイヤルします。 続いて、登録する電話番号をダイヤルします。 ③ボイスポストに録音する場合は、「0」をダイヤル後、メールボックス番号ダイヤルします。（ボイスポストをご利用のお客様のみ）
5 通話 キーを押します。

○かけてきた方が、「0」をダイヤルすると外線、「2」をダイヤルすると内線、「1」をダイヤルするとボイスポスト（ボイスポストをご利用の方のみ）に転送されます。

○登録するときは、外線を指定された場合、内線を指定された場合、ボイスポストのメールボックスを指定された場合（ボイスポストをご利用の方のみ）のそれぞれの転送先の登録と、P. 90 ＜転送先を登録するには＞の登録があらかじめ必要です。（操作手順4では④）

8 ＰＳ一斉着信

外線からの着信を複数のＰＳに着信させて、応答できます。

参考 ○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

9 準公衆システム

公衆契約ＰＳを事業所用モード／公衆モードの両方で使用できます。

参考 ○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

14. ＰＣ＆ＴＥＬの収容

主装置にＰＣ＆ＴＥＬを接続し、ＰＣ＆ＴＥＬよりパソコンに接続することにより、 パソコンでの電話帳機能、着信時発信者番号を受信して、発信者情報のポップアップ機能などが実現できます。

ＰＣ＆ＴＥＬ操作の詳しい説明は、ＰＣ＆ＴＥＬの使用説明書を参照してください。

参考
○この機能を使う場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。

15. ＮＴＴナンバーディスプレイ機能の利用

ナンバーディスプレイサービスを契約することにより、次のようなサービスを受けることができます。

（１）着信時、ディスプレイ付端末へのナンバーディスプレイ表示。（P. 63 を参照）
（２）受信ナンバー毎の着信先、着信音の指定。（P. 63 を参照）
（３）着信リダイヤル。（P. 25 を参照） または、着信履歴。（P. 94 を参照）
（４）発信者番号（かけてきた方の電話番号）および発信者番号名称の登録
電話がかかってきたとき、かけてきた方の名前を 100 件（00 ～ 99）まで表示することができます。あらかじめ＜登録①、②＞の登録が必要です。

＜登録①：発信者番号の登録＞

1 ディスプレイ付電話機の [保留] キーを押します。

~~2 [×] キーを押します。~~

3 [内線] キーを押します。

4 「6」「9」「0」とダイヤルし、[ワンタッチ] キーの２を押します。（2回）

5 発信者番号の登録番号（00 ～ 99）をダイヤルし、[ワンタッチ] キーの２を押します。
○現在登録されている発信者番号を表示します。（登録済の場合）

6 発信者番号をダイヤルします。
○発信者番号の７、８、９、10、11 桁目で [フレキシブル] キーの１を押すと“X”が表示され、“X”以降の番号を一括して登録することができます。
（例）：03123456X → 0312345600 ～ 99 までです。
031234567X → 0312345670 ～ 9 までです。
07012345X → 07012345000 ～ 999 までです。
0701234567X → 07012345670 ～ 9 までです。
○[ワンタッチ] キーの１、[ワンタッチ] キーの３で１桁毎の変更ができます。
○[ワンタッチ] キーの４で現在入力中の発信者番号を全て消すことができます。
○[ワンタッチ] キーの５で現在登録されている発信者番号に戻ります。（登録済の場合）

7 登録したい発信者番号をダイヤルしたら、[ワンタッチ] キーの２を押して登録します。
○登録できた場合は、「ピー」と鳴り、現在登録されている着信音を表示します。
○登録できない場合は、「ピーピー」と鳴ります。 このときは [ワンタッチ] キーの２を押してから、操作手順の5からやり直します。

8 [スピーカ] キーを押します。（登録①を終了）

○登録①の登録番号（00～99）は登録②で使用するので、どの登録番号にどの発信者番号を登録したかをメモしておいてください。

＜登録②：発信者番号名称の登録＞

1 ディスプレイ付電話機の [保留] キーを押します。

~~2 [メ] キーを押します。~~

3 [内線] キーを押します。

4 「6」「9」「1」とダイヤルし、[ワンタッチ] キーの２を2回押します。

5 登録①の発信者番号の登録番号（00～99）をダイヤルし、[ワンタッチ] キーの２を押します。
　○現在登録されている発信者番号名称を表示します。（登録済の場合）

6 発信者番号名称を入力します。
　○ディスプレイの上段に「ア行」を表示し、下段に現在の発信者番号名称を表示します。
　○[フレキシブル] キーの１～５が「ア」～「オ」に対応しています。
　○[ワンタッチ] キーの９（次候補）を押すと、「カ行」が表示されます。さらに押すと「サ行」、「ナ行」とスクロールします。
　○[ワンタッチ] キーの 10（前候補）で「ア行」の表示に戻ります。
　○[ワンタッチ] キーの１、[ワンタッチ] キーの３で１文字毎の変更ができます。
　○[ワンタッチ] キーの４で現在入力中の発信者番号名称を全て消すことができます。
　○[ワンタッチ] キーの５で現在登録されている発信者番号名称に戻ります。（登録済の場合）

7 登録したい発信者番号名称を入力したら、[ワンタッチ] キーの２を押して登録します。
　○登録完了音「ピー」が鳴り、次の登録番号の発信者番号名称を表示します。

8 続けて登録するときは、操作手順の５～７を繰り返します。
　登録を終了するときは、[スピーカ] キーを押します。
　（登録②を終了）

参考

○操作手順５の途中で、新たに発信者番号の登録番号を２桁ダイヤルし直すことで、別の発信者番号名称の登録に切替えられます。
○（１）、（２）、（３）、（４）の機能を使う場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。
○（１）、（２）、（３）、（４）の機能を使う場合は、ＮＴＴナンバーディスプレイサービスの契約必要です。

（５）着信履歴

かかってきた外線の発信者番号（かけてきた方の電話番号）を受信した場合、その外線に応答した場合も、応答しなかった場合も、発信者番号を蓄積することができます。

蓄積した発信者番号を使って、簡単に電話をかけることができます。

＜内線ごとに蓄積された着信履歴で電話をかけるには＞

ダイレクトライン、夜間ダイレクトライン、ＰＢＸダイヤルイン、付加番号ＤＩＤで着信した外線は、内線ごとに10件まで蓄積します。

1　受話器をあげます。

2　(着信履歴) キーを押します。

3　[応答] キーを押します。

○一番最近かかってきた着信履歴（発信者番号）が表示されます。

○さらに [応答] キーを押す毎に10件まで着信履歴が表示されます。

4　着信履歴表示中に (外線) キーを押すことで、相手先に発信することができます。

着信履歴のディスプレイ表示は次のようになります。上段に「着信日時」、下段に「相手先番号」を表示します。

＊０６／１２　１２：３４　ＥＸＴ
００：０３４４４４５５５５

（ＥＸＴ：内線着信）

○「＊」は応答した番号のとき表示され、応答しなかった番号には表示されません。

（発信後「＃」が表示されます。）

＜複数の電話機に共通で蓄積された着信履歴で電話をかけるには＞

外線ボタンが赤く点滅する外線の着信は、共通で100件まで蓄積され、複数の電話機から蓄積された発信者番号で電話をかけることができます。

1　受話器をあげます。

2　(着信履歴) キーを押します。

3　[＃] キーを押します。（表示がＧＲＰに切替ります。）

○ＤＧＬ着信の場合は [＃] キーではなく [※] キーを押します。

4　[応答] キーを押します。

○一番最近かかってきた着信履歴（発信者番号）が表示されます。

○さらに [応答] キーを押す毎に100件まで着信履歴が表示されます。

5　着信履歴表示中に (外線) キーを押すことで、相手先に発信することができます。

着信履歴のディスプレイ表示は次のようになります。上段に「着信日時」、下段に「相手先番号」を表示します。

＊０６／１２　１２：３４　ＧＲＰ
００：０３４４４４５５５５

（ＧＲＰ：テナントグループ着信
ＤＧＬ：ＤＧＬ（ＭＳＡ）着信）

○応答しなかった番号のみ表示されます。

（発信後「＃」が表示されます。）

応答した番号は、内線ごとに蓄積、表示されます。

参考
○この機能を使う場合は、ハードオプションが必要ですので販売店にご相談ください。
○着信履歴は蓄積できる件数を超えた場合、古い発信者番号から消えます。
○この機能を使う場合は、ＮＴＴディスプレイサービスの契約が必要です。

16. ＩＳＤＮ内線の利用

内線にＩＳＤＮ対応のＴＡ（ターミナルアダプタ）を収容し、電話やデータ通信を行うことができます。ＴＡに収容された内線から特番操作ができます。
ＩＳＤＮ内線にマルチポイントとして８台までのＴＡを接続できます。また、各々のＴＡに内線番号を付与できます。

参考
○ＩＳＤＮ内線からできる機能に制限があります。詳しくは販売店にご相談ください。
○Ｄｃｈパケット通信はＩＳＤＮ内線からはできません。Ｄｃｈパケットを行うときは外線側にマルチポイント接続をしてください。
○この機能を使う場合は、販売店にご相談ください。

17. 地域系ＮＣＣの利用

東京電話などの地域系ＮＣＣを利用したＬＣＲ機能を利用できます。

参考
○この機能を使う場合は、工事設定が必要です。販売店にご相談ください。

●付　録

1 音の種類一覧

種　類		音	位　置
発信音	外　線	ツー	受話器またはスピーカ
	内　線	ツーツー	
着信音	内　線	プルプル、プルプル、	スピーカ
	外線、ＰＢＸ経由外線	プルルー・・・・プルルー	
	ＤＩＬ／ＤＩＤ、外線キャンプオン	プルプルプル・・・・プルプルプル	
	ＰＢＸ内線経由	プルプル・・・・プルプル	
	ＰＢＸ外線経由のＤＩＬ／ＤＩＤ、外線キャンプオン	プルプルプル、プルプルプル、	
	通話中の外線、ドアホン	ピー・・・ピー	
話中音		ツーッツーッ	受話器またはスピーカ
呼び出し確認音		ピピ	
登録／解除終了音		ピー	
フッキングダイヤル		ツーツー	受話器
保留音		メロディ（グリーンスリーブス他）	受話器またはスピーカ
保留警告		ピー・・・・ピー	スピーカ
エラー音		ピーピー	受話器またはスピーカ
付加番号ＤＩＤの内線発信音		プププププ・・・・	外線に送出
付加番号ＤＩＤの話中音		プーップーッ	
付加番号ＤＩＤの呼出し確認音		プルプル、プルプル	

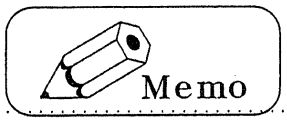
2 キーとランプの表示一覧

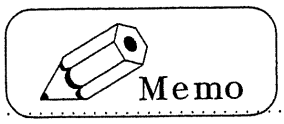
キー	点　灯	点　滅	速い点滅	消灯
「スピーカ」	オンフックダイヤル スピーカ受話 外線ハンズフリー	—	—	未使用
「マイク」	内線ハンズフリー応答 外線ハンズフリー	—	—	
「内線」	内線通話中	転送保留中	内線着信中、再呼出し	
「リダイヤル」	着信リダイヤル有効	—	—	無効

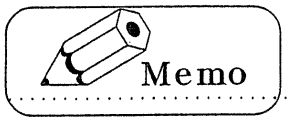
3 機能キーの一覧

フレキシブルキーに割付けられる41種類の機能一覧です。あらかじめ電話機の種類ごとにフレキシブルキーには機能が割付けられています。割付けられたフレキシブルキーのファンクションNo.を、取付け時のキーの位置に表示しています。

No.	キー名称	キーの位置	機能名	概　要
01	リダイヤル	—	リダイヤル	再ダイヤル
02	オートリピート	F1	オートリピート	話中時の自動反復呼出し
03	ダイヤルメモリ	—	メモダイヤル	電話番号の記憶呼出し
04	短縮ダイヤル	F5	固定短縮ダイヤル	固定短縮ダイヤル呼出し
05	代理応答	—	他着信代理応答	他電話機の代理応答
06	秘解除／会議	F2	秘話解除／会議通話	三者通話
07	夜間切替	—	昼夜着信音鳴動切替	昼夜着信音鳴動切替
08	集中着信	—	集中着信応答	全着信の一括応答
09	指定外線転送	—	指定外線自動転送	指定外線着信を自動転送
10	自己保留	—	自己保留応答	外線の自己保留／応答
11	不在設定	—	不在設定表示	不在内容表示
12	ＰＢ信号	F4	ＰＢエンドツーエンド通信	プッシュボタン信号の送出
13	予約	—	発信予約／内線キャンプオンビジー	回線が空き次第発信／内線が空き次第呼出し
15	不在転送	—	不在転送	不在時着信を登録先に転送
16	ＬＣＲ停止	F6	ＬＣＲ使用の停止	ＬＣＲ自動選択の停止
17	クラス切替	—	クラス切替	クラスごとの規制
18	指定代理応答	—	他グループ着信代理応答	他グループの代理応答
19	着信ウェイト	—	他外線着信保留	他の外線着信を保留する
20	割込み	—	割り込み通話	通話に割り込める
21	フッキング	—	フッキング	フッキング
22	料金	—	料金	料金表示
23	アラーム	F3	アラーム	アラーム音鳴動
24	ＦＡＸ１	—	ＦＡＸ状況表示	ＦＡＸ発着信表示
25	ＦＡＸ２	—	ＦＡＸ状況表示	ＦＡＸ発着信表示
26	在席／離席	—	秘書機能	幹部電話機の在席離席
27	通話録音	—	音声メール装置	録音装置に通話を録音
28	メール登録	—	音声メール装置	メールボックスへのアクセス
29	録音終了	—	音声メール装置	録音の終了
30	一時停止	—	音声メール装置	録音の一時停止
31	ランプ更新	—	カールコードレス専用	カールコードレス子機のランプ自動更新可／付加
32	外線発信	—	外線発信	外線発信目的のファンクション
33	キャリア選択	—	ＬＣＲの選択	ＮＣＣ回線をダイヤル
34	メッセージ通知	—	音声メール装置	通知メールボックスの指定
35	内線MBX指定	—	音声メール装置	内線メールボックスの指定
36	内線料金	—	内線別通話料金出力	内線毎の通話料金出力
37	非通知	—	発番号非通知発信	“184”発信
38	外線代理応答	—	外線代理応答	外線代理応答
39	内線代理応答	—	内線代理応答	内線代理応答
40	キーパッド	—	キーパッド	キーパッドファシリティ送出
41	着信履歴	—	着信履歴	着信履歴
65	メールボックス	—	音声メール装置	通話録音内容の録音先指定


Memo


Memo


Memo

株式会社リコー
東京都港区南青山 1-15-5 リコービル 〒107 Tel:(03)3479-3111(代表)
3PP1117- 5400 P001 Rev.1.1

1996 年 4 月印刷

P9048504